

017.3

017.3-H99ㄣ



1200500724043

山内記念圖書館開館誌

兵庫縣立明石中學校編



始





昭和十年七月

山内記念圖書館開館誌

兵庫縣立明石中學校



017.3  
H99



山西紀念圖書館贈呈並開館報告

山西先生  
謝恩紀念會  
寄贈本





目次

寫

眞

古宇田會長ヨリ感謝ヲ贈呈セラシテ、光景・分玉副會長ヨリ記念事業經過報告ノ光景・記念圖書館贈呈式ニ參列セル主要ナル人々・祝賀會場ニ於テ古宇田會長挨拶ノ光景・山内圖書館内部閱覽室ノ光景・第十二回創立記念式並ビニ第十二回保護者會總會ノ光景・天壤無窮碑五葉

緒

言

天壤無窮碑記

山内記念圖書館贈呈並開館式概況

感謝ノ辭

記念事業經過報告

記念事業會計報告

祝辭

祝電

答

辭

開館ノ辭

工事關係者ニ贈呈シタル感謝狀  
列席者芳名

締切後到着シタル寄附者芳名

山内記念圖書館記事

一、記事

二、圖書館係員ノ組織及ビ任務

三、圖書館閱覽ニ關スル生徒心得

四、在庫圖書

記念圖書館整地日誌

記念圖書館竣工をよろこびて

通信

三十年前山内校長深キ感銘ニ係ル 皇太子殿下行啓ト其當時中學生ノ感激

二十五年前並二十年建設天壤無窮碑記





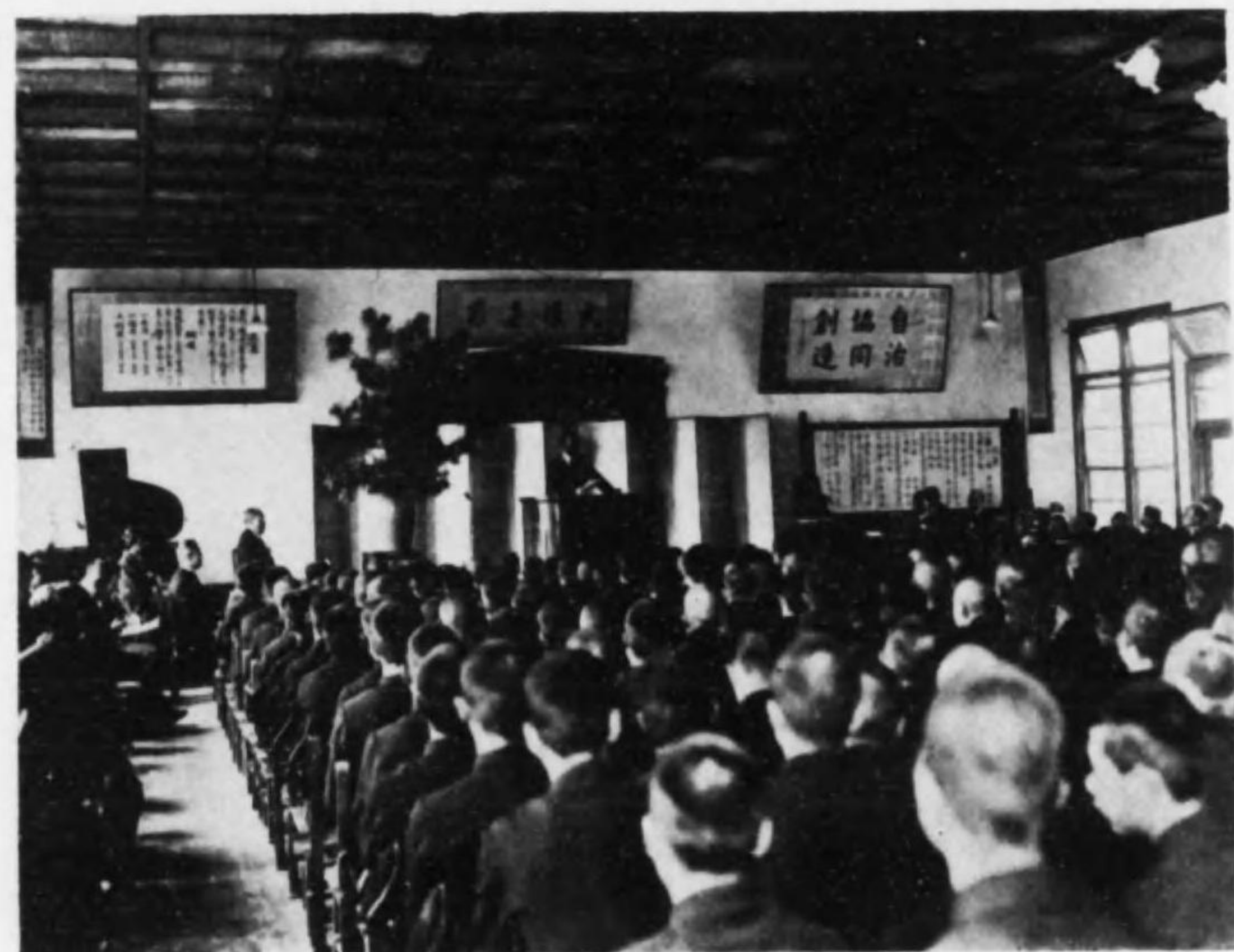
古宇田記念會長ヨリ  
感謝狀ヲ呈呈セラレル景光





記念館書贈呈式ニ参列セル主要ナル人々

前田 敦頭	分玉 副會長	石井 委員	米澤 副會長	今林 技師	島田 委員	山内 武夫	後列
古宇田 會長	多木 代議士	山内 夫人	山内 校長	小西 博士	松本 主事	前列	

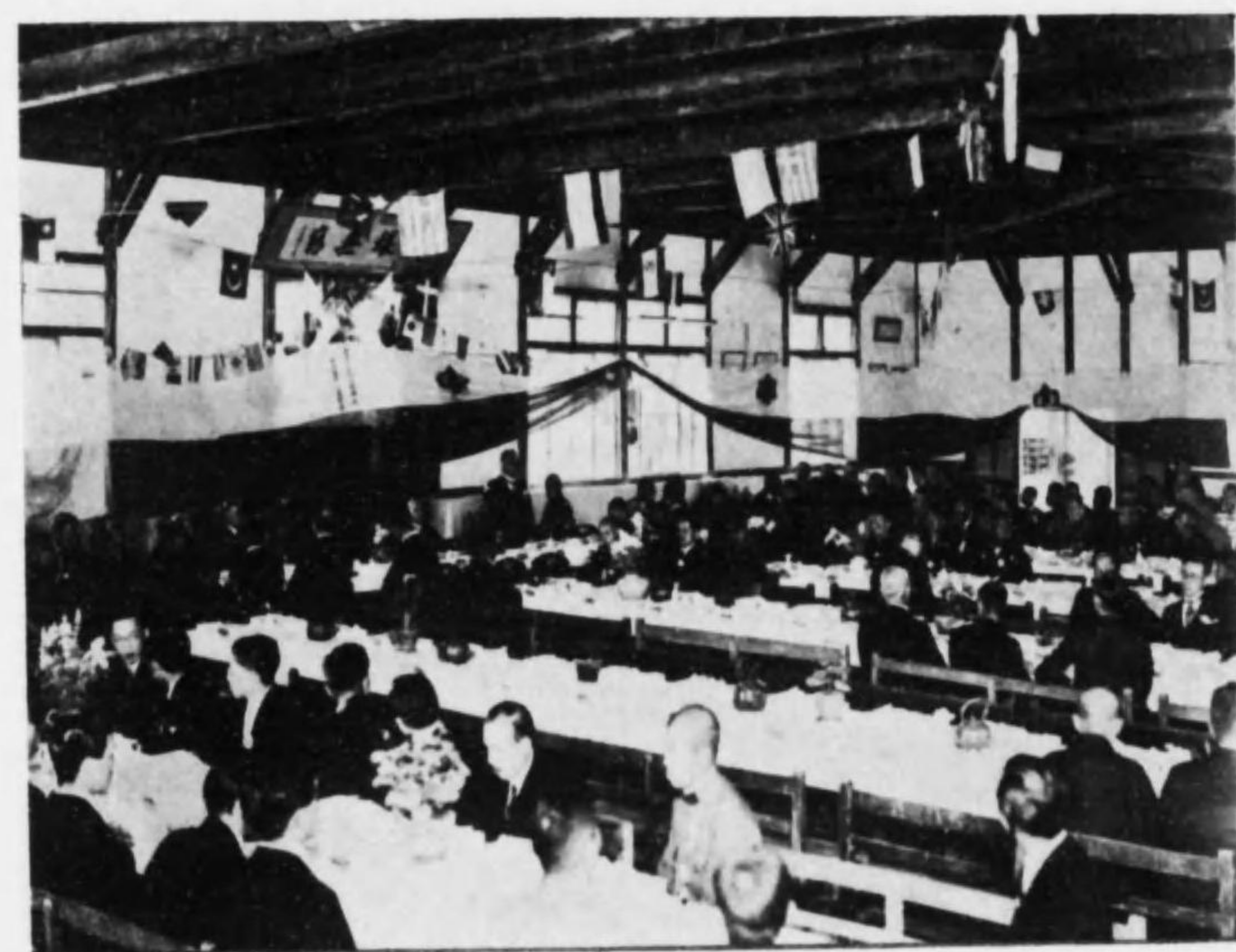


分玉副會長  
記念事業經過報告ノ光景





山内記念圖書館內閱覽室ノ光景  
生徒課外讀書



祝賀會場ニ於テ  
古宇田會長挨拶ノ光景

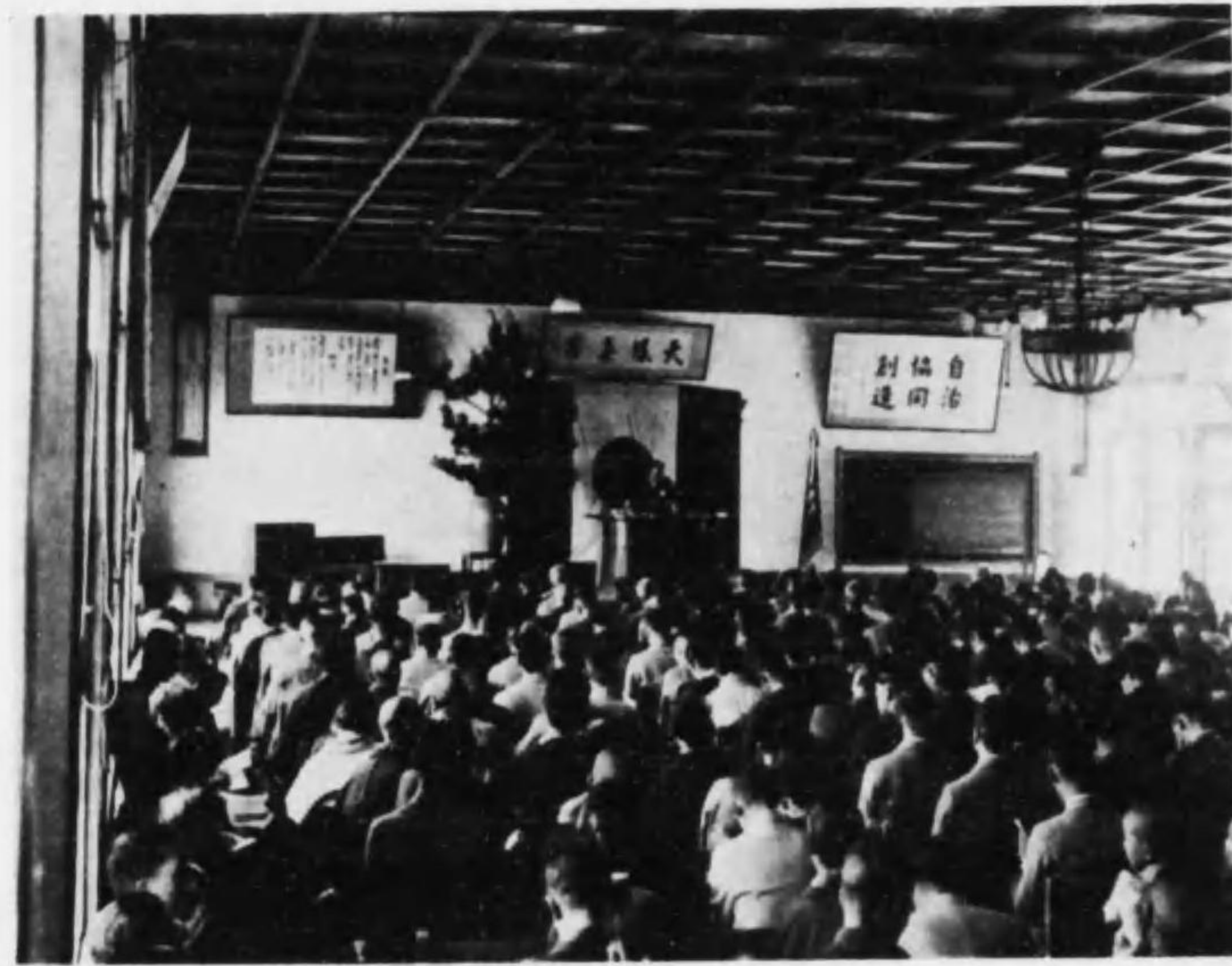


明治四十年三月竣工  
京都府立第四中學校校碑  
國士魂碑



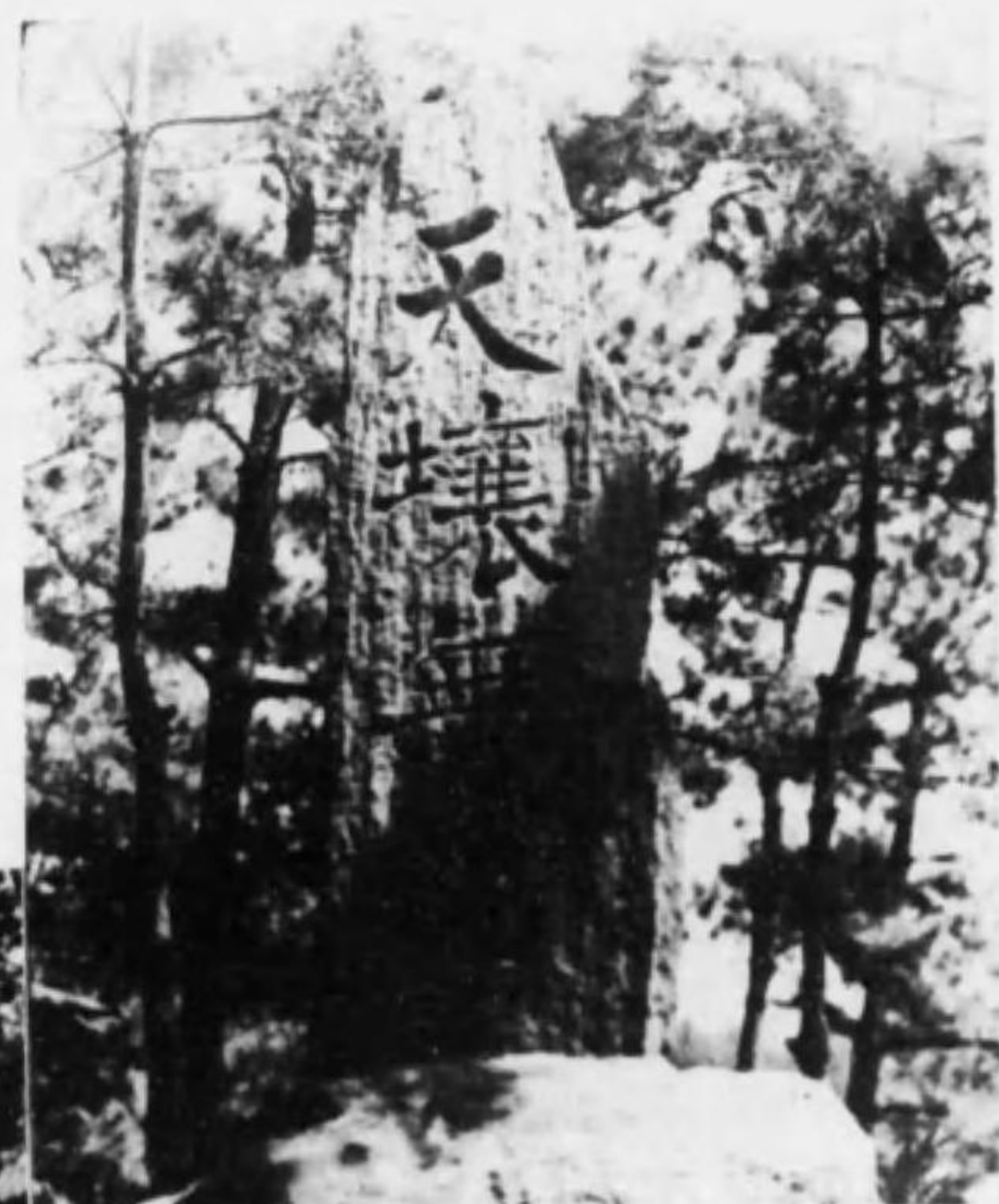
↑ 明治四十四年五月二十一日  
皇太子殿下行啓記念  
千葉縣立佐倉中學校  
天壤無窮碑  
(千葉縣佐倉町助役  
白井清之助氏寄贈)  
碑前  
右 竹迫聯隊長 中央 山内校長  
左 柳生中佐 中山郡長

碑窮無壤天ノ在現  
(影撮月六年十和昭)



會總會者護保回二十第ニ並式念記立創回二十第  
景光式館開館書圖內山テ兼





(上)

岡山縣西中學校大正六年山内  
校長開拓ニ係ル學校園内ニ建  
設セラレタル大正御大典記念

天壤無窮碑

(關西中學校教諭  
坪井敷馬氏寄贈)

(下)

昭和七年十月三十日建設  
明石中學校校碑

天壤無窮碑



表面ニ掲クル寫眞ハ、創立以來茲ニ拾年、深ク既往ノ實績如何ヲ  
反省シ、更ニ清新ノ意氣ヲ以テ「天壤無窮」ノ教育大道ニ躍進セント  
努ムル「兵庫縣立明石中學校」及ビ「山内校長」ノ眞影ニ係ル

天 壤 無 窮

伯爵牧野伸顯書



表面ノ「天壤無窮」ノ大文字ハ本校創立拾年記念事業ノ一トシテ、  
 本年七月十八日同窓總會ニ於テ、満場一致ヲ以テ其建立ヲ決議シタ  
 ル「校碑」正面ノ題字デアル。該文字ハ牧野伯爵ガ山内校長ノ懇請ヲ  
 容レテ揮毫サレタ書ニ係ル

天壤無窮  
 本校創立拾年記念事業  
 一九二〇年七月十八日  
 同窓總會決議  
 山内校長  
 題字

天壤無窮  
 本校創立拾年記念事業  
 一九二〇年七月十八日  
 同窓總會決議  
 山内校長  
 題字



表面ニ掲クル書簡文ノ(上)ハ牧野伯爵閣下ヨリ(下)ハ本庄關東軍

司令官閣下ヨリ山内校長ノ大患ヲ見舞ハレタル芳華ニ係ル

### ○ 緒 言

一、本年四月二十八日山内記念圖書館の贈呈竝に開館式を舉行せられましたと同時に、還曆謝恩記念誌の發刊により、此の事業の一切の顛末を報告せられたのでありますが、肝腎の贈呈竝開館式の實況を報告する機會を得なかつたので、本誌はこの記念式の如何にも嚴重にして、人間味の深厚でありました其儘を爰に收め、この生きた教育史料を永遠に保存せんが爲編輯したものであります。



山内記念圖書館の贈呈竝に開館式には、圖らず四十餘年前の神戸師範附屬小學校の出身者たる現名古屋醫科大學病院長勝沼博士を始め、掛川中學出身者たる杉山贊一氏・宮本英雄氏・河井昇三郎氏等、宮津中學出身者では小林徳太郎氏・山田梅藏氏・今林彦太郎氏・中村芳雄氏等、佐倉中學出身者では市原用氏・關西中學出身者では森敬三氏等東西より馳せ参じて下さつたその純眞な人情の深きに至りましては、洵に感激に堪へざると同時に、教育の意味、眞に無限なることを感謝せざるを得ないのであります。殊に小西博士が全く御特志により、日本精神教育御援助の御思召を以て、萬障御差繰り御來臨下さりました御誠意に對しましては、余は教育者として無上の感激を與へられた次第であります。

一、斯かる教育上意義最も深遠なる事業の滞りなく結了いたしましたのは、固より會員各位の御誠意によるものでありますが同時に委員諸氏の熱誠なる御盡力の賜物でございます。殊に古宇田會長の御高配と、終始一貫斯業の爲御盡力下さつた分玉巽・石井雄吉・島田信一・前田房吉・仲田明の諸氏を始めとして、明石中學校職員御一同の至誠勤勞の結果に外なりません。茲に明記して會員各位と共に感謝の微忱を表します。

昭和十年六月十八日

山内佐太郎



## ○天壤無窮碑記

山内佐太郎識

二

松陰先生七生説ニ曰ク「君子ハ心ト理ト通ズ。體滅シ氣竭クルモ理獨リ古今ニ亘リ天壤ヲ窮メテ未ダ嘗テ暫ラクモ歇マサルナリ」ト。松陰先生ノ所謂「理」トハ宇宙絶對ノ真理タル「至誠」ナリ。「至誠」ハ天地ノ真生命ナリ。君子即チ人格者ハ此ノ真生命ニ生ク。是吾人ノ眞實生クル道ナリ。松陰然リ。楠公然リ。總ベテノ人格者皆然リ「天行健」日月星辰ノ運行ハ實ニ健全ニシテ億萬年弛ミ無シ。隨ツテ我々ノ心臓肺臟ノ働モ變リナシ。我ガ大日本帝國ハ此ノ「天行健」トピツタリト一致シテ天壤無窮ニ進辰レテ息マス。此ノ天壤無窮ノ皇運トピツタリト一致シテ息マサルモノ是即チ日本精神ナリ。實ニ日本精神ハ宇宙絶對ノ真理、天地永久ノ真生命ノ躍動ナリ。去ル明治三十七年余京都府立第四(現宮津)中學校長拜命當時教育指導精神ヲ宣明シテ謂ヘルアリ曰ク

至誠爲本、勤勞爲主、德操爲體、智能爲用、以期報國、要在養國士魂。

是吾人ガ天地ノ真生命即宇宙絶對ノ真理ニ生クル「至誠」ノ魂教育ヲ志スヤ言ヲ俟テ

ス。形式的觀念的教育ヨリ脱却シテ實在實如ノ真生命ノ教育ヲ念願シテ息ム能ハズ。是ヲ以テ明石中學校校訓ニ曰ク本校ハ精力ノ最善活用ニヨリ人格ノ完成ヲハカリ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼ス云々。是即チ「明中魂」ナリ。明中魂ハ即チ日本精神ニシテ自己ヲ生カシ正々堂々社會ヲ指導シ國民ヲ養成スル所ノ生命ナリ。此ノ生命ノ發露ニヨリ宮津中學校ニハ卓然獨高ノ國士氣魄教育ノ表象トシテ「國士魂碑」ノ建設ヲ見、佐倉中學校ニハ「天壤無窮碑」存シ、關西中學校ニモ期セスシテ「天壤無窮碑」顯現シ、明石中學校ニモ「天壤無窮ノ校碑」建設セララル。是洵ニ至誠一貫息ムニ息ム能ハサル日本精神ノ發揚ニアラズレテ何ゾヤ。

惟フニ山内記念圖書館ハ三千有餘名ノ「至誠」ノ結晶トシテ建設セララル。偉ナル哉「至誠」大ナル哉「天壤無窮」ノ氣魄。此ノ意氣氣魄ニ感奮興起スル者豈啻ニ明中健兒ノミナランヤ。

昭和十年六月十八日

星月のめくりめくりて止らぬ

心を己が心ともがな (故蟹江博士)

三



○山内先生還曆記念 圖書館贈呈並開館式概況

四

我等待望ノ佳日ハ遂ニ訪レタ。昨昭和九年一月、山内先生甲戌再來ヲ祝シ還曆謝恩記念圖書館建設ヲ發議シ、ツイテ謝恩記念會ヲ組織同年十一月一日其ノ事業タル記念圖書館建築工事起工以來着々進捗ヲ見ツ、アツタ山内先生還曆謝恩記念圖書館ハ今春四月竣工ヲ告ゲ盛大ナ贈呈並ビニ開館ノ式典ハ舉行セラレタ。悦ビノ色ハ學園ニ滿チ壽キノ聲ハ式場ニ溢レタ。

昭和十年五月廿八日、新緑ノスガスガシイ絶好ノ季節、前ニハ内海ヲヘダテ淡路島山ヲ近ク紀和連山ヲ遠ク眺メ、校庭ノ青松、遠ク霞ム中國山脈ヲ背景ニ美シク新粧ヲ凝ラシタ近代の建築ノ山内先生記念圖書館ハ今日ノ式典ヲ待チ切レヌカニ見エタ。廿七日午後斯ノ記念式典ノ準備モ全クナリ、明ケテ二十八日ハ燦タル春光ヲ見ル事ハ出來ナカツタガ、暑カラズ寒カラズノ曇日和、式典ニハ此ノ上ナイ好日デアツタ。三百餘名ノ來賓ハ續々踵ヲ接シテ見エ、會長古宇田神戸高等工業學校長司會ノ下ニ本縣知事代理松本教育主事ヲ始メ官本本縣警備課長、前京都帝國大學總長小西重直博士、多木・青木兩代議士、上田・國賀兩縣會議員、縣下中等學校長、小學校長、明石市在各官衙代表者、伊達神戸圖書館長等列席、山内先生四十餘年間ニ亘ル教ヘ子達ノ代表者トシテ、名古屋醫大附屬病院院長勝沼精藏博士、神戸實業家竹田龍太郎氏、前京都帝國大學法學部長宮本英雄氏大阪工業家杉山贊一氏、住友總務部長河井昇三郎氏、三重縣立富田中學校長小林德太郎氏、神戸辯護士山田梅藏氏、宮津醫師中村芳雄氏、建築技師今林彦太郎氏、岡山第六高等學校教授森敬三氏、大阪高等學校教授市原用氏等百餘名及ビ本校同窓會並ビニ保護者會役員百餘名列席、午前九時運動場ニ於テ皇居遙拜終ツテ本校生徒ノ團分列式ヲ舉行、次イテ講堂デ次ノ式次ニヨリ春風ノ和スルガ如キ和氣霽々タル空氣ノ中ニ秋水ノ清キガ如キ嚴肅莊重ナル感ノ中ニ約三時間ニ亘ル長時間ノ式典ハ舉行セラレタ。蓋シ四十餘年間ノ出身校ヲ異ニセル教ヘ子達ガ齊シク斯ク一堂ニ會シ舊師ニ對スル謝恩記念圖書館贈呈ノ美舉ヲナスコトハ前古稀有ノ教育界ノ盛事デアラウ。宜ナル哉、其ノ式典ノ前後比ヲ見ヌ盛儀ナリシト。

尚式ノ前後來賓各位ニ圖書館ノ縦覧ヲ乞ヒ式終ツテ午後一時本校生徒控室ニ設ケラレタ會場ニテ祝賀宴ハ開カレ、古宇田會長挨拶ニツイテ前田教頭祝電披露、山内先生挨拶、最後ニ明石ノ長老鈴木武翁ノ發聲ニヨリ山内先生萬歲三唱シテ午後二時斯ノ有意義ナ式典ハ滞リナク終ラゲタデアツタ。

山内記念圖書館贈呈並開館式次第

- 一、舉式ノ辭 石井 委員
- 二、國歌合唱 古宇田 會長
- 三、感謝ノ辭並贈呈 分玉 副會長
- 四、皇御國合唱 島田 委員
- 五、記念事業經過報告 山内 先生
- 六、會計報告 山内 校長
- 七、長官祝辭 米澤 副會長
- 八、來賓祝辭 石井 委員
- 九、保護者會同窓會並生徒總代祝辭
- 一〇、答辭 山内 先生
- 一一、開館ノ辭 山内 校長
- 一二、工事關係者へ感謝狀贈呈 米澤 副會長
- 一三、校歌合唱 石井 委員
- 一四、閉式ノ辭 石井 委員



## ○感謝ノ辭

六

茲ニ今日ノ吉日ヲトシテ山内先生謝恩ノ式典ヲ舉行スルニ當リマシテ直接又ハ間接ニ先生ノ御薫陶ヲ受ケタル者及ビ現ニ受ケツ、アル者一同多年教育界ニ盡クサレテ御功勞多キ先生ニ對シ感謝ノ微意ヲ表シタイト存ジマス。

先生ハ明治二十七年三月兵庫縣尋常師範學校ヲ御卒業暫時郷里掛保郡立伊水高等小學校ニ奉職拔擢セラレテ神戸師範學校訓導ニ任ゼラレ更ニ高等師範學校文科及ビ研究科ヲ御卒業以來靜岡縣立掛川中學校教頭、京都府立第四中學校長、千葉縣立佐倉中學校長、岡山縣關西中學校長等ニ歷任セラレ後一旦嚴父ノ訃ニ遇ヒ家事整理ノ爲退耕ノ餘儀ナキニ至ラレマシタケレドモ教育ノ事ハ一日モ忘レラズ國旗教育ヲ創始シ郷里實業補習教育ニ盡力サレタ。大正十一年明石中學校創立ノ際再ビ選バレテ校長トナリ今日ニ及バレタノデアリマス。其ノ間四十年先生ハ玲瓏玉ノ如キ御人格ト高邁ナル御識見ト加フルニ觸ルレバ何物ヲモ懽カサネバヤマス熱ト意氣トヲ以テ幾多有爲ノ人材ヲ養成シ且現ニ育成サレツ、アルノデアリマス。

實ニ先生ハ青英ノ業ヲ以テ自己ノ生命トシ學校ヲ以テ自己ノ住家トシテ至誠一貫事ニ當ラレ事實斯ノ聖業ニ半生ヲ捧ゲ先生自ラモ斯界ノ先覺者ヲ以テ任ジ且又一般人士モ先生ヲ先覺者トシテ崇敬措ク能ハナイノデアリマス。會テ先生ヲ評シテ斯界ニ於ケル國寶的人物ナリト言ツタ人ガアリマスガ誠ニ故アル哉ト存ズルノデアリマス。

曩ニ先生カ京都府立第四中學校長時代中學教育ノ改善充實ニ盡瘁セラレタル廉ヲ以テ文部省ヨリ表彰セラレ又昭和八年帝國教育會ヨリモ先生ノ教育界ニ對スル功勞特ニ顯著ナリトノ廉ニヨリ功勞賞牌及ビ表彰狀ヲ御受ケニナリマシタノモ洵ニ當然ノ事ト存ジマス。

過般先生還曆ノ賀ニ際シ先生ノ恩誼ヲ受ケタル者共相計リ一ハ先生多年ノ御洪恩ニ報イル爲一ハ先生ノ還曆ヲ祝シ併セテ先生畢生ノ教育事業ヲ達成スル爲山内先生謝恩記念會ヲ組織シ山内記念圖書館ヲ建設贈呈ノ件及ビ壽像一基贈呈ノ件ヲ可決イタシマシテ銳意ソノ目的達成ニ努力シマシタ結果竣工ヲ見ルニ至リマシタ。

茲ニ右山内記念圖書館及ビ山内先生壽像一基ヲ贈呈シテ感恩ノ微忱ヲ表スル次第デゴザイマス。

昭和十年四月廿八日

山内先生謝恩記念會長

正四位勳三等 古 宇 田 實

## ○記念事業經過報告

古宇田會長「感謝の辭」に次いで左記記念事業日誌に基づき分玉副會長より記念事業經過報告があつた。

昭和九年

一月 五日 明中塾ニ於テ同窓會有志會ヲ開キ會長中戊再來ニツキ還曆記念ノ爲記念圖書館建設ノ發議アリ滿場一致之ヲ

賛成シ其ノ方法ニツイテ意見ヲ交換セリ 且本日ノ出席會員四十八名ハ各自發起者タルコトヲ申合セタリ

是ヨリサキ昨年中會長舊任地宮津中學校出身者上谷博士・山田梅藏外數氏並ビニ掛川中學校出身者杉山實一・

首藤守彦・河井昇三郎・宮本英雄・鳥井精一氏等ヨリ交々舊師山内先生還曆謝恩記念品贈呈ノ件ニ付申出ア

リタルニツキ之ガ合流方ヲ希望申出ヅルコトトセリ

一月 七日 保護者會常任委員會ヲ開キ分玉實・島田信一・石井雄吉・長谷川治太郎四氏發議ニヨリ會長還曆記念圖書館

建設ノ件同窓會ノ企劃ト共同ノ件申合セタリ

二月 十三日 職員會ヲ開キ「山内校長還曆謝恩記念會」ノ件ニツキ協議シ同窓會並ビニ保護者會ニ協力ノ件協定セリ

二月 十七日 山内校長還曆謝恩記念事業ノ發起人勸誘狀ヲ發送セリ

七



二月十九日 保護者會常任委員會ヲ開キ山内校長遷曆謝恩記念會長ニ古宇田神戸高等工業學校長ヲ、庶務係ニ分玉・石井・長谷川氏ヲ會計係ニ伊藤・島田氏ヲ委囑ノ件協定セリ

三月一日 午後五時ヨリ山陽電氣食堂ニ於テ山内校長遷曆謝恩記念會實行委員總會ヲ開キ二十三名出席、會則及ビ勸誘文等ニツキ協定、且役員ヲ委囑セリ

四月七日 午前九時ヨリ明中記念文庫ニ於テ實行委員會ヲ開催セリ

四月十七日 午後四時ヨリ明中記念文庫ニ於テ實行委員會開催

四月廿一日 午後七時ヨリ明石市公會堂俱樂部ニ於テ實行委員會ヲ開催セリ

五月廿四日 午後七時ヨリ公會堂俱樂部ニ於テ實行委員總會ヲ開催セリ

六月十一日 實行委員島田信一氏學校隣接地ノ荒地所有者ヲ市役所ニテ取調ノ結果住吉町土岐悅藏氏ナルコトヲ知レリ

六月十五日 實行委員島田・石井氏同道西宮市助役松尾氏ノ紹介ニテ住吉村役場庶務係橋本氏ヲ訪問、土岐氏ノ住所取調方ヲ依頼セリ

六月廿六日 實行委員石井・島田兩氏同伴大藏院ニ赴キ正式交渉分讓成ル

七月十三日 圖書館敷地使用願ヲ提出セリ

八月二日 縣指令會計第一一九二號ニヨリ敷地使用許可

八月十四日 午後三時ヨリ縣議事堂ニ於テ記念圖書館設計批評ヲ開キ伊達神戸圖書館長・今林設計部長・中島關西學院圖書館主事・森縣都市計劃課技師・古宇田本會長・宮本縣營繕課長其ノ他本會役員十七名出席相互ニ意見ヲ交換シ、夕餐ヲ共ニシテ解散セリ

九月六日 建築願提出

九月十四日 午後三時ヨリ地鎮祭執行

昭和十年 十月三十日 午前十時ヨリ起工式典ヲ行フ

一月十六日 午後三時ヨリ上棟祭執行

三月廿五日 午後四時ヨリ記念文庫ニ於テ委員會開催贈呈式並ビニ收支決算ニ關スル打合ヲ行フ

四月十四日 午前九時ヨリ古宇田會長・分玉・石井・島田委員及ビ今林技師立會成工検査ヲ行フ

四月十五日 本縣建築掛藤本正一氏來校成工検査ヲ行フ

四月廿八日 贈呈並開館式舉行

○記念事業會計報告

收入之部

總收入 貳萬四千壹百貳圓九拾錢也

內譯 第一項 會員三千六百六十一名釀出  
第二項 雜收入(預金利子)

二三、七一〇、〇四  
三九二、八六

支出之部

總支出 貳萬四千壹百貳圓九拾錢也



内 譯

第一項	建築費	一九、七〇六、六四
第二項	敷地購入費	三〇九、六八
第三項	整地費	一九三、二八
第四項	設備費	九五八、一〇
第五項	造園費	四七八、七六
第六項	山内先生胸像並ニ感謝狀調製費	三一五、七八
第七項	贈呈式典費	一五〇、〇〇
第八項	通信費	三九一、一六
第九項	印刷費	七三六、四〇
第十項	設計監督費	三三八、七〇
第十一項	事務諸費	二九七、八八
第十二項	雜費	二二六、五二

○ 祝 辭 (順序不同)

湯澤本縣長官閣下祝辭

長官代理 松本教育主事

縣ノ命ヲ受ケマシテ本日ノ此ノ盛典ニ列スルヲ得マシタ私ハ縣ノ趣旨ノアル所ヲ述ベ御祝ヲ申上ゲマス。

祝 辭

山内記念圖書館竣工ヲ告ゲ、本日茲ニ之ガ贈呈並ビニ開館ノ盛典ヲ舉行セラル、ニ當リ一言祝意ヲ表スルヲ得マス事ハ余ノ洵ニ欣快トスル所デアリマス。

惟フニ山内先生謝恩記念會ノ山内記念圖書館建設贈呈ノ事タル、先生ガ四十餘年間教育道ニ精進サレタ努力ガ花ヲ開キ實ヲ結ンダ結果デアリマシテ、教育ニ當ルモノノ最モ榮譽トスル所デアリマス。殊ニ本日幾多知名ノ士ガ本日ノ斯ノ盛典ニ列席セラレ、其ノ多數ガ先生ノ教養ニ與ツタ人士デアアルコトヲ思ヒマス時、強ク吾人ノ耳朶ヲ打ツモノハ孟子ノ所謂「君子三樂」ノ言デアリマス。先生コソ「得天下英才教育之」君子三樂ノ一ヲ得ラレタ方デアアルト信ズルノデアリマス。殊ニ世ヲ舉ゲテ世道人心ノ輕薄ニナツテキル現今、謝恩記念會ヲ組織シテ謝恩記念圖書館贈呈ノ美舉ヲナスヲ見ルコトハ、山内先生教養ノ御力ノ偉大ナルヲ知ルト同時ニ眞ノ師弟道ヲ表ハスモノデアツテ洵ニ感激ニ堪ヘヌモノガアリマス。其ノ謝恩會ノ贈呈モ先生ガ世ヲ思ヒ國ヲ思ハル、教育ノ御精神カラ記念圖書館ヲ得ラレマシタ事ハ是亦先生ノ慧眼ノ然ラシムル所デアリマシテ、眞ニ學校教育社會教育ニ意義アルモノ、山内先生ガ子弟並ビニ世ノ人々ノ事ヲ永ク考慮サレタモノデ、感激ニ堪ヘナイ次第デアリマス。先生ガ此ノ山内記念圖書館ヲ通シテ學校教育・社會教育延イテハ眞ノ日本ノ教育道ニ貢獻サレル事ノ如何ニ大ナルカヲ思ウテ轉々欣喜ノ情ニ堪ヘマセス。

終ニ山内先生ノ愈々御健康デ教育ニ御精進サレル事ト本校職員生徒諸氏ノ御發展トヲ祈ツテ祝辭トスル次第デアリマス。

祝 辭

本日斯ノ山内先生謝恩記念圖書館贈呈並ビニ開館ノ盛典ニ列シ、一言祝意ヲ表スル事ヲ得マシタノハ私ノ洵ニ感激ニ堪ヘヌ所デアリマス。



今ヲ去ル三十年前、私ハ廣島カラ四國ニ渡ル際先生ト船ヲ共ニシマシテ、初メテ語ヲ交ハシマシテ以來三十年間特ニ昵懇ニシテ戴イテ居ルノデアリマス。

昨年十二月私ハ赤穂ニ於ケル義士會ノ歸途本校ニ寄セテ戴キマシテ、斯ノ謝恩記念事業タル圖書館建設ノ工事ノ進捗セル様ヲ見セテ戴キマシテ洵ニ深イ感激ニウタレタノデアリマシタ。殊ニ山内先生ニ案内サレテ三階ニ昇リ、私ガ此ノ室ヲ「留魂堂」ト命名サレテハト申上ゲマシタノヲ早速御用ヒ下サイマシタ事ハ私トシテ是ノ上ナイ感激デアリ勿體ナイ程ノ光榮デアリマス私ノ恩師岡田先生ハ其ノ御邸ノ一室ニ「留魂閣」ト命名シテ居ラレマスガ、留魂トイフ語ハ吉田松陰先生ノ留魂録ヨリ取ラレタモノデアリマス。私モ亦山内記念圖書館ノ三階ニ案内サレテ松陰先生ノ事、山内先生ノ事ヲ思ヒ浮カベタノデアリマシタ。松陰下村塾ニ幾多ノ子弟ヲ教養シテ明治維新柱石ノ士ヲ育成サレタ國士吉田松陰先生ハ安政六年二十九歳ノ若サデ武藏野ノ露ト消エラレマシタガ、

身はたどひ武藏の野邊に朽つるとも

留めお かまし 日本魂

トノ先生ノ辭世ハ永久ニ國民ノ耳朶ヲ打ツ日本精神ノ叫ビデアリマス。又松陰先生ガ松下村塾ニ於テ其ノ子弟ニ示サレタ「士規七則」ナルモノヲ見マスニ、先ツ第一ニ示サレテ居ルノハ忠孝ノ精神デアリマシテ、「士規七則」ヲ貫ク一ノ精神——其ハヤガテ忠孝ノ根幹タル精神デアリマスガ——ハ、至誠デアリマス。驕ツテ我が山内先生ノ御心中ヲ御察シ致シマスノニ、先生ハ無我無慾至誠一貫誠ニ生キテ世ノ爲人ノ爲教育ノ爲ニ生キテ居ラレル。松陰先生ノ「士規七則」ノ精神ノ權化トモ謂フベキ御方デアリマス。私ハ先年先生ガ大患中病ノ身ヲ推シテ登校セラレタト京都デ聞キ、合掌シテ教育ノ爲ニ喜ンダノデアリマシタ。先生コソ今日ノ松陰ト申上ゲベキ方ダト思ヒマス。サレバ此ノ先生ノ教養ヲ受ケル生徒其ノ他諸氏ノ教育ノ道場ニ「留魂堂」ト命名スルノハ洵ニ意義深イト信ジテノコトデアリマス。

此ノ留魂堂ニ山内先生ハ自己ノ名ハ全ク出サレズ幾多先賢國士名士ノ遺墨參考品ヲ陳列シテ世ノ風教ヲ益セントシテ居ラレ

マス。マコトニ此ノ留魂堂、山内先生ノ誠ノ精神ガ縮マツテハ此ノ室ニ籠リ、廣マツテハ日本全國ノ風教ヲ導ク感ガアリ、此ノ留魂堂コソ日本魂、日本精神ノ躍動セルモノト言ヒ得ルノデアリマス。先生ガ此ノ留魂堂ニヨツテ日本ノ教育ニ盡クサレル事ノ如何バカリ大ナルモノアルカヲ思ヒ惟ウテ感激ニ堪ヘナイノデアリマス。

本日此ノ盛典ニ列シ一言祝意ヲ表スルノ機ヲ與ヘ下サイマシタノデ、私ガ命名ノ光榮ヲ得マシタ留魂堂ノ名ノ由ル所ヲ述ベテ祝辭ニ代ヘル次第デアリマス。

前京都帝國大學總長  
文學博士 小 西 重 直

### 祝 辭

我國中等教育ノ現狀ヲ觀ルニ、其ノ多クハ上級學校ノ豫備教育ヲ以テ甘ンジ、専ラ知識ノ傳授ニ汲々タルガ如シ。然ルニ、夙ニ卓越セル見識ト高邁ナル抱負ノ下ニ、精神教育ノ必要ヲ絶叫シテ起チ、情意ノ陶冶ト作業的訓育施設ニ核心ヲオキ、以テ斯界ニ先鞭ヲ着ケ、本邦中等教育界ニ異彩ヲ放テル晨星ハ、我が敬愛セル山内校長先生其ノ人タリ。

先生爲人高潔、邊幅ヲ飾ラズ、明朗豊潤ノ性格ニ加フルニ達識ト熱意ノ存スルアリ。人ニ接スルヤ城府ヲ設ケズ、諄々薰化セシメテ止マズ。齡還曆ニ達スルモ、意氣猶壯者ヲ凌ギ人格愈々圓熟シテ只管後進ノ成徳達才ヲ以テ至樂トセラル。而モ職員生徒克ク其ノ人格ニ悅服シテ、戮力協心喜憂ヲ共ニシ師弟ノ情誼瀟然擲スベキモノアリ。他ノ追隨比肩ヲ許サズ。誠ニ教育者本然ノ天稟ヲ具有大成シ、其ノ本領ヲ遺憾ナク發揮セラル、モノ、校風ノ天下ニ高鳴リ、名聲ノ噴々タル、眞ニ故ナキニアラズ。豈本縣教育界ノ至寶ニ非ズシテ何ゾヤ。

而シテ茲ニ多年其ノ薰陶ニ浴セシ幾千ノ社會的有用ノ人材、竝ビニ先生ノ高風ヲ欽慕セル同志相謀リ、聊カ其ノ晚年ヲ慰藉



シテ先生ノ怡樂ノ境域ヲ作スルト共ニ、其ノ勳績ヲ永遠ニ不朽ナラシムベク圖書館建設ノ企劃ナリ、愈々工ヲ竣へ、其ノ盛典ヲ舉行セラル。洵ニ教育界稀ニ見ルノ美績、還曆祝賀ニ對スル恰好ノ記念事業、天下有識ノ士ノ讚仰措カザル所ナルベシ。豈偉大ナラズヤ。而モ事ノ茲ニ至レル、發起者諸賢ノ創始斡旋甚大ナルモノアリ。謹ミテ滿腔ノ敬意ヲ捧ゲザルヲ得ズ。若シ其レ築造ノ規模機構其ノ活用方法ノ如キ、幾多ノ新機軸ヲ宿シ、先生ノ人格面目ヲ髣髴如セシムルモノアリ。隨ツテ其ノ使命ノ達成、世道人心ニ及ボス効果、眞ニ期シテ俟ツベク、豈快心ノ極ナラズヤ。

終ニ臨ミ、先生愈々加餐、益々斯道ニ精進セラル可キヲ念願シ、且天下ノ良校長ヲ輔佐シテ渾心一体克ク其ノ大ヲ成サシメタル教職員生徒諸氏ノ絶大ナル勞苦ヲ多トスルモノナリ。冀クハ更ニ將來彌々偕和、其ノ美果ヲ永遠ニ保持セラレン事ヲ翹望ニ堪ヘザルモノナリ。聊カ所懷ノ一端ヲ披瀝シ、恭シク祝意ヲ表ス。

昭和十年四月二十八日

縣教育會副會頭、兵庫縣會議員 上 田 義 二

### 祝 辭

本日山内先生謝恩記念圖書館贈呈竝ビニ開館ノ盛典ニ列シ一言祝意ヲ述ベル機ヲ得マシタ事ハ私ノ洵ニ光榮トスル所デアリマス。

山内先生ガ如何ニ教育ノ爲ニ献身的ニ働カレテキルコトカ、ソレハ四十餘年ノ教ヘ子ノ代表者達ガ一堂ニ會シテ居ラレル此ノ盛典ニヨツテ知ラレルデアリマス。又先生ノ四十年間ノ教ヘ子達ガ、今ヤ社會ノ各方面ニ亘ツテ活動シテ居ラレル事、更ニ其ノ人達ガ時ニツケ折ニフレテ先生ヲ訪レテ來ラレルノデアアルガ、斯ノ事實ニヨツテモ如何ニ先生ノ德ノ偉大デアアルカヲ察知スルニ足ルト思フノデアリマス。

教育ヲ自己ノ天ヨリ受ケタル「聖業」ト信ジ子弟ノ事ヲノミ思ハル、先生ハ、其ノ還曆謝恩ヲ機トシテ、斯ノ聖業、彼ノ子弟教育ニ缺クベカラザル圖書館ノ建設ヲ思ヒツカレタノガ今日ノ斯ノ盛典ヲ見ルニ至ツタ次第デアリマス。

承ル所ニヨレバ本記念圖書館ハ内容モ既ニ充實ノ案ガ立テラレ、源泉滾滾トシテ晝夜ヲ舍カザル的ノ活キタ泉タル眞ノ圖書館ノ使命ヲ果サントシテ居ラレルトノ事デアリマスガ、洵ニ本縣中等教育 爲ニ喜ビニ堪ヘヌ所デアリマスト同時ニ、明石市民トシテ長ク企劃シテ實現サレナカウタ明石ノ圖書館ガ山内先生ニヨツテコ、ニ實現ヲ見マシタ事ハ全ク感謝ノ情ニ堪ヘヌ所デアリマス。終ニ今後益々先生ガ御壯健斯道ノタメニ御精進下サル事ヲ祈ツテヤミマセヌ。

一言述ベテ祝辭トイタシマス。

兵庫縣會議員 國 賀 至

### 祝 辭

時正ニ三春ノ好季、山内記念圖書館新築其ノ工ヲ竣へ、本日ノ吉辰ヲトシテ茲ニ落成ノ式典ヲ舉行セラル。

本圖書館ハ其ノ位置タルヤ、土地高燥ニシテ四圍闊ケ、背後ニハ遠ク疊嶂ノ連峰ヲ廻ラシ、南ハ瀬戸内海ノ絶景ヲ一眸ニ收ムベク、眺望ノ佳ナルコト他ニ其ノ比ヲ見ズ。又其ノ構造ニ於テ、内容ノ整備ハ輪奐ノ美ト相俟チ、就テ見ルモノヲシテ爽快ヲ覺エシメ、入ツテ學ヲ修ムル者其ノ至便ニ感銘セン。

聞クナラク、本館ハ現明石中學校長山内佐太郎氏ニ師事セシモノ、恩師ニ對スル謝恩ノ誠意ヲ捧ゲ、師ノ還曆ヲ記念セントスルモノナリト。是レ素ヨリ子弟ノ訓化ニ熱心ナル、又其ノ愛情ノ濃ナルコト慈父ノ如キ山内校長ノ崇高ナル人格ノ反映ニ外ナラズト雖モ、近來動モスレバ師道漸ク地ヲ拂ハントスル傾向アル今日、師ヲ思フ子弟ノ情ノ切ナルモノニヨリテ此ノ美舉アリシハ、又以テ我が國教育界ノ爲、大ニ意ヲ強クセザルベカラズ。



一六  
纏ツテ圖書館ノ使命ヲ考フルニ、或ハ學ニ篤キ者ト雖モ、五車ノ書ヲ一人ニテ收藏スルコト能ハズ、又其ノ涉獵自修セントスル所ノ書ハ、人各異ツテ等シカラズ。幸ニシテ圖書館ハ坤輿ノ書籍ヲ一堂ニ蒐集シ、學ヲ好ム者ヲシテ其ノ望ム所ニ隨ヒ、博ク歴覽シ、讀了スルコトヲ得シメ、以テ其ノ修養啓發ニ資ス。

實ニ圖書館ハ斯クノ如クニシテ、嚮テ思想ヲ善導シ時代ヲ指導スル重要ナル機關ナリ。思ウテコ、ニ至レバ、好學ノ者ノ之ニ倚リテ享受スル恩惠ハ實ニ鴻大無限ナリ。而シテ山内記念圖書館ノ地方人士ニ與フル福祉亦甚大ナルヲ思ハザルベカラズ。時恰モ世ヲ舉ゲテ思想ハ輕佻ニ赴キ危激ニ馳セ其ノ動搖ノ甚シキ今日、之ニ倚リテ思想ハ安定シ、進ンデ我が國文化ノ進展ニ寄與スルトコロアラシカ、洵ニ邦家ノタメ慶祝セザルベカラズ。

冀クハ此ノ偉大ナル記念圖書館ヲシテ、不朽ニ隆昌ナラシメント期スルト共ニ、山内校長ノ益々健在ニシテ我が國教育會ノ爲折角絶大ナル御健闘アランコトヲ、一言蕪辭ヲ陳ネテ祝辭トス。

昭和十年四月二十八日

明石市長正七位勳六等

磯野鶴太郎

東京文理科大學長

森岡常藏

祝 春光にそひて立ちたり記念館

祝 君のいさを新館と高し春空に

社 社  
陵 陵

## 祝 辭

凡ソ人ハ何人モ多ク名義ニ拘ハリ、形式ニ囚ハレテ、其ノ實質眞價ヲ誤認スル憾ミガアリマス。例ヘバ大學ノ教官ハ皆大人物ノヤウニ思ヒ、小學校ノ先生ハ悉ク小人物ノヤウニ考ヘマス。シカシ大學ノ教官ニモ、取ルニ足ラヌ小人物モアリ、又小學校ノ先生ニ大人格者モアリマス。其ノ實質眞價ヲ認識シテ、之ヲ世間ニ發揚スルノハ識者ノ任デ、因ツテ以テ世道ヲ率キ、人心ヲ砥礪スルコトガ出來ルノデアリマス。

明石中學校長山内佐太郎先生、其ノ名義ハ一中學校長ニ過ギマセンガ、其ノ識見其ノ人格ハ、實ニ世ニ傑出シテ居ラレマス。自ラ名義ノ榮達ヲ求メラレズ、致々トシテ後進ノ育英ニ全精神ヲ傾倒セラレ、寔々トシテ中等教育家指導ニ精進セラル。私ハ常ニ先生ノ誠意ニ感ズルト共ニ、其ノ教育上ノ所説ニ敬服シ、私淑シテ措カザルモノデアリマス。今回先生ノ年賀ニ際シ、從來各地デ先生ノ訓教ヲ受ケシ者三千餘名相謀ツテ記念圖書館ヲ建立シ、之ヲ先生ニ贈呈セラルト聞キ、此ノ師ニシテ此ノ子弟アリト寔ニ感激ニ堪ヘマセン。此ノ學實ニ先生在任ノ學校ノミナラズ、全國ノ子弟ニ及ボス教化亦誠ニ偉大ナルモノガアルト信ジマス。先生ノ如キ實ニ天下ノ大教育家ト謂フベキデアリマス。

本日圖書館贈呈開館ノ盛典ヲ舉行セラル、ニ當リ、是非參列シテ其ノ教訓ニ浴シタイト熱望シテ居リマシタガ、目下旅行中ニテ其ノ意ヲ得ナイコトヲ深く遺憾ト致シマス。旅途ヨリ蕪辭ヲ呈シテ、謹ンデ深厚ノ敬意ヲ表シマス。

先生益々御自愛加餐セラレテ、永ク其ノ職ニ盡クサレ、以テ教育者ノ模範ヲ一層偉大ナラシメルヤウ切ニ祈ツテ止ミマセン。

皇紀二千五百九十五年  
昭和十年四月二十八日

全國中等學校聯合會幹事長  
衆議院議員 荒

川 五 郎



## 祝 辭

一八

豫テ山内先生謝恩記念會ニ於テ計劃セラレタ圖書館建築工事ガ全ク竣リ、本日ノ佳辰ヲトシ、茲ニソノ贈呈並ビニ開館式ヲ舉行セラル、ニ當リ、コノ盛典ニ列シ、縣下中等學校長ヲ代表致シ、祝辭ヲ申シ上ゲル機會ヲ得マシタルコトハ私ノ甚ダ光榮ト致ス所デアリマス。

申シ上ゲルマデモナク、教育ハ人格ト人格トノ接觸ニ依ツテ、生キタ人間ヲ眞實ノ人間ニ仕上ゲル仕事デアツテ、中々容易ノ業デアアリマセン。唯コノ仕事ヲ熱愛シ、教ヘ子ヲ親心モテ包容シ、所謂天地ノ化育ニ參ズル天職ナルヲ自覺シ、教育報國ノ信念ニ燃エ、己ムニ已マレヌ心ノ持主ニシテ初メテ積極的ノ生氣瀰刺タル眞ノ教育ヲ期待シ得ラレル。私共ガ多年知ヲ辱ウスル山内校長ソノ人コソ正シクコノ種ノ典型的ノ教育家デアツテ、ソノ純眞熱誠、人間味豊カナル人格ニ加フルニ、豐富ナル體驗ト高邁ナル識見トハ往クトシテ可ナラザルハナク、常ニ青少年ノ薰化ニ、ハタ學校經營ノ施設ニ、獨自ノ特色ヲ顯ハシ、殊ニ作業教育ノ提唱並ビニ之ガ實施ニ先鞭ヲ着ケラレタルガ如キハ、私共ノ常ニ敬服措ク能ハザル所デアリマス。

今回山内校長還曆ノ壽ヲ迎ヘラレタルニ際シ、ソノ薰陶ヲ受ケタル弟子相諮リ巨資ヲ醜出シ、精神ノ糧トシテノ圖書館ヲ建設シ、コレヲ贈呈シ、謝恩ノ誠意ヲ捧ゲラレマスコトハ洵ニユカシキ美學デアリマシテ、師恩ノ較モスレバ、忘レラレ易キ現代ニ感激ヲ深クイタス次第デアリマス。全クカノ至誠而不動者未之有也ノ古聖ノ言、我ヲ欺カズト痛感致シマス。殊ニコノ企テハ營ニ學校教育ニ寄與イタスノミデナク、廣ク社會教育ノ一機關トシテ貢獻イタサル、コトデアリマセウカラ、山内校長ノ社會教化並ビニ地方文化ノ進展ニ對スル理想實現ニ資スル所、亦多大ナルコトト信ジ、意義更ニ深キヲ覺エル次第デアリマス。思ウテ茲ニ到ルトキ、コノ師ニシテコノ弟子アリトノ感慨深ク、山内校長多年ノ苦心茲ニ結晶シ、所謂作物ガ作者ヲ譽メル譯デアリマシテ、天下ノ英才ヲ得テ之ヲコ、マデ教育德化セラレタル山内校長ハ、君子三樂ノ一ヲ滿喫セラレタモノデ、ソノ愉悅満足ノ程如何ナランカト推察致シマス。トモニ、教育者トシテコノ至樂ヲ得ラレタル御清福ヲ賀スルトトモニ、更ニ自愛加

餐アツテ國家百年ノ大計ノ爲ニ御努力アリタク希望ニ堪ヘマセン。

ナホ生徒諸子ニ於カレテハ、諸子ノ先輩ガ師恩報謝ノ活模範ニ鑑ミルトコロアルハ勿論、コレヲ正シク活用シ、進學修德ニ努メ、天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スルニ足ル忠良ナル日本國民トナラル、ヤウ心カラ祈ル次第デアリマス。以上謹辭ヲ陳ネテ祝辭ト致シマス。

昭和十年四月廿八日

縣下中等學校長代表

縣立第一神戶高等女學校長

酒 井 榮 太 郎

## 祝 辭

本日茲ニ山内先生記念圖書館贈呈並ビニ開館式ヲ舉行サルルニ方リマシテ、一言祝意ヲ表スル機會ヲ與ヘラレマシタ事ハ、私共圖書館事業ニ從事スル者ノ最モ欣幸トスル所デアリマス。

惟ウニ社會ガ進展スルト共ニ、教育思想ガ益々發達シ、從ツテ教育ノ形式方法モ亦時代ノ進運ニ促サレテ、多種多様トナリ學校教育ト共ニ圖書館教育ノ必要ナル事ガ頓ニ高唱サレテ來マシタ事ハ我々教育ニ從事スルモノノ等シク御同慶ニ存ズル次第デアリマス。

由來我國ノ教育ハ維新以來西洋文化ノ吸收ヲ急グノ餘リ、各種ノ智識ヲ應急的ニ、速成的ニ、沒批判的ニ、丸暗記的ニ——イハバ口移シニ教ヘ込マナケレバナラナカツタメニ、教育完成ノ上ニ於テ最モ肝要ナルベキ圖書館ノ設置ヲ閑却シテ居リマシタ。學校ニ比シテ圖書館ニ對スル教育的價值ヲ忘却シタ感ガアリマシタ。從來日本ノ社會一般ガ圖書館トイフ國民文化施設ノ中心点ヲ見失ツテキタ感ガアリマス。



實際學校教育ニアリマシテハ、自ラ一定ノ限度ガアリマスガ、人間ノ教育ハ終リナキモノデアリマス。學校ヲ離レテノ教育ハ如何ナル方法ニヨツテ成シ得ルカ、ココニ社會人ノ教育機關タル完全ナル圖書館ノ必要ガ生ズル所以デアリマス。今日ノ如キ文化ノ急進ト愧シキ社會狀況ノ變化ニ處シテ、ソノ實相ヲ把握スルニハ、智識ノ選擇殊ニ讀書ノ選擇トイフ事ガ必然的ニ起ルノデアリマシテ、斯ル場合最モ効果的ニ、又適宜ニソノ要求ヲ充シ得ルト共ニ、何人ト雖モ自由ニ自己教育力ヲ達成スル事ノ出來得ル機關トシテハ、圖書館ガ最モ其主要ナル位置ヲ占ムルコトハ何人モ疑ハナイ所デアラウト思ヒマス。從ツテ今後ノ學校教育ハ學生ニ對シテ、廣キ意味ノ讀書教育ヲ行ヒ圖書館ソノモノヲ深ク認識セシメ、ソノ利用ノ方法ヲ教ヘ書物出版物ニ關スル判斷力、鑑識眼ヲ與ヘルト共ニ自學自修ノ興味ト氣風ヲ鼓吹スル必要ガアルト存ジマス。

申ス迄モナク學校ハ我等ニ原理原則ヲ教ヘル所デアリマスガ、若シ學生ハ學校ニ於テ、唯單ニナイフトフオクヲ與ヘラルルノミニ止マリ、皿ニ盛ラレタ御馳走ヲ如何ニシテ自己營養ノ資トスベキカノ鑑識工夫等ニ就テ何等教ヘラレナイヤウナコトガアリトスレバ誠ニ日本教育ノ大ナル缺陷ト申サネバナリマセヌ。

獨逸ノシルレルハ「此處ニ全知全能ノ神ガアツテ我々ニ智識ソノモノヲ與ヘルカ、或ハ智識ヲ開ク鍵ヲ與ヘルカト言ハバ、我々ハ智識ソノモノヲ取ラズシテ寧ろ喜ンデ鍵ノ方ヲ取ルデアラウ」ト申シテ居リマスガ、畢竟此鍵ヲ與ヘルノガ學校本來ノ目的デアリマシテ學校デ與ヘラレタ鍵ヲ如何ニ使用スルカヲ自ラ學ブ事ノ出來ルノガ圖書館デアリマス。圖書館ハ徒ラニ藏書冊數ノ大ヲ誇ル單ナル智識ノ倉庫トシテ存在スルモノデハナク、無限ノ活用性ヲ有スル所ニ圖書館本來ノ使命ガアルノデアリマス。我々ガ終生絶エズ自己自身ヲ修養大成スルニハ是非共完全ナル圖書館ノ設備ヲ必要トスルノデアリマス。

斯様ナ意味ニ於キマシテ、學校教育ノ足ラザルハ圖書館ニ於テ之ヲ補フ。即チ學校ト圖書館トハ所謂輔車唇齒ノ關係デアツテ兩々相待ツテ——ソノ「相持チ」ノ力ヲ發揮シテコソ初メテ眞ニ人間ノ教育ハ完成セラルルノデアリマス。

此時ニ當リ、山内先生謝恩記念會ガ先生ヘノ記念品贈呈ニ際シ、特ニ山内先生ガ、圖書館ノ設置ヲ切望サレマシタ事ハ、夙ニ先生ニ於テモ圖書館教育ノ如何ニ重要性ヲ有スルカヲ留意サレタ結果ニ外ナラナイト信ジマス。

山内先生ハ「教育ハ余ノ生命デアリ、明石中學校ハ、余ガ天壤無窮ノ教育道ニ生キル現在ノ住宅ナリ」トノ信念ノモトニ、明石中學校創立以來十有二年、作業教育ノ明中、野球ノ明中トシテ、更ニ天下ノ明中タラシメラレタ天成ノ教育者デアリ、教育界稀ニ見ル人格者デアラレマス事ハ、私共ノ申スマデモナク諸君ノ等シク御同感ノ事ト存ジマス。

熱誠ナル山内先生ノ訓育ヲ受ケラレタ方々ニヨツテ山内先生謝恩記念會ガ設立サレ、其間幾多ノ困難ト障害ヲ打破シテ本日此記念スベキ圖書館が目出度ク竣工ヲ見マシタ事ハ、誠ニ明石中學校ノ教育ヲシテ有終ノ美ヲナサシメ完璧タラシムル所以デ明石中學校ニ學ブ生徒諸君ノ精神の礎石トナリ自己教育ノ標のトナルノミナラズ、將來明石市民ノ文化の生活ノ進展ニ偉大ナル原動力トナル事ト確信スル次第デアリマス。

願ハクハ明石中學校ニ學ブ學生諸君ガ前述ノ如ク此圖書館ヲ自己教育力育成ノ道場トシテ校長ヲ初ノ理解アル諸先生ノ指導ヲ遵守シ將來明石中學校ノ校風ヲシテ單ナル注入的、劃一的ノモノタラシメズ、進ンデ積極的ニ啓發的ナル個性尊重、天才誘導ノ教育タラシメヨ。願ハクハ生々發展ノ活力ナキ單純ナ一本調子ノ人間ヲ作ラズシテ健全ナル大國民トシテ將來永久永遠ニ——亭々トシテ高ク自ラ能ク伸張シ得ベキ工夫的研究の乃至批判的態度ヲ取り得ルノ習慣ト信念養成ニ徹底セシメラレコトヲ切望シテ止マナイノデアリマス。

私共圖書館事業ニ從事スル者トシテ、山内先生並ビニ謝恩記念會諸彦ニ對シテ、深厚ナル敬意ト滿腔ノ祝意ヲ表シ、活氣隆々タル明石中學校ノ盛運ト共ニ本圖書館將來ノ御發展ヲ祈ル次第デアリマス。謹ミテ蕪辭ヲ述べ祝辭ニ代ヘタク存ジマス。

昭和十年四月二十八日

神戸市立圖書館長 伊 達 友 俊



祝 辭

明石ノ浦碧水靜カニシテ淡路島山遠クカスミ自強ヶ丘ノ春色綠濃キ今日ノヨキ日、茲ニ山内先生記念圖書館新築贈呈ノ盛典ガ舉行セラル、ニ當リマシテ、私モマタ末席ニ列スル光榮ヲ得マシタコトハ非常ナル歡喜デアリマス。

抑モ國家ノ隆運ハ教育ノ力ニ俟タネバナラヌコトハ今更申スマデモアリマセン。教育ハ實ニ國運ノ基礎トナルモノデアリマス。此ノ事完備シテハジメテ國家ハ充實シ、兵力ハ整備シ、又文學藝術ハ榮エ、殖産工業ハ發展シ、眞ニ國運ノ隆昌ヲ期スル事ガ出來ルノデアリマス。而シテ教育ノ目的ヲ達スルニハ、學校ノミニ満足スベキモノデナク、家庭教育モ必要デアレバ社會教育モ勿論必要デアリマス。

就中直接學校以外ノ社會教育ハ、時期ガ最モ永ク一生ヲ通ジテ行ハルベキモノデアリ、ソノ良否ノ影響スルトコロハ甚ダ大ナルモノデアリマス。コノ社會教育ノ一機關トシテ、廣ク公衆ヲシテ或ハ學生ヲシテ百科ノ圖書ヲ縱覽セシメ、以テ學術技藝研鑽ノ便ヲ圖ルベキ圖書館ガ如何ニ必要デアルカハ多ク論ズルマデモナイ事デアリマス。

私共モ多年人口四萬有餘三中等學校三小學校ヲ有スル明石市ニ、カ、ル設備ノ成立サレン事ヲ熱望シテ居ツタノデアリマス幸ヒニモ此度山内先生御還曆ノ記念トシテ、先生ヲ御懷ヒナサル多クノ教ヘ子タチ並ビニ有志ノ方々ノ努力ニ依リマシテ芽出度ク本日本館ノ落成贈呈ノ式ヲ舉行サル、ニ至リマシタ事ハ、山内先生ノ薰陶力ノ偉大サトコノ麗ハシイ情誼ニ深ク感激シテキル次第デアリマス。必ズヤ將來學生生徒ハ勿論ノ事地方幾多ノ人々ガ本館ヲ利用スル事ニ依ツテ得ル所ノ利益ハ實ニ莫大ナモノガアラウト信ズルモノデアリマス。

今ヤ我國ハ世界ニ對スル使命ヲ自覺シテ、國民一齊ニソノ歩武ヲ整へ、猛然トシテ理想ノ境地ニ躰進セントスル秋デアリマス。此ノ企テヤ誠ニ時機ニ適シタモノデアルト確信致シマス。特ニ本館ハ眺望絶佳ノ土地ニ設立セラレ、日本精神ノ培養ハコ、

ニ來ル者ヲシテ必ズヤ体得セラレ山内先生ノ德ハ永久ニ稱ヘラレテ尤モフサハシイ理想的美果ヲ結び、明中教育ハ充實シ本市ノ發展ヲ期シ得テ國家ニ貢獻スル所亦大ナリト信ズルノデアリマス。  
茲ニ本館所築落成贈呈式ニ當リ關係各位ニ對シマシテ深甚ノ謝意ヲ表スルト共ニ山内先生ノ益々御健闘ヲ祈念シ、聊カ思フトコロヲ述ベテ祝辭トイタシマス。

昭和十年四月二十八日

兵庫縣下小學校代表  
明石小學校長 野澤實之助

祝 辭

本日茲ニ山内先生謝恩記念圖書館贈呈竝ビニ開館ノ盛典ニ列シテ保護者會ヲ代表シ一言祝意ヲ述ベルコトヲ得マシタノハ私ノ最モ光榮トスル所デアリマス。

本日ノ斯ノ盛典ニ御參集下サイマシタ方々ニハ、皆山内先生ト種々深イ御縁故ノアル御方デ御座イマスガ、私共ノ小サイ魂ヲ先生ニ託セル保護者ノ關係ハ特ニ深イモノガアルノデアリマス。私共ノ祖先ノ守ツテ來タ祖國日本ハ日清・日露ノ兩役ニ勝利ヲ占メ今日ノ地位ニ迄到達シタノデアリマスガ、ソレハ一ニ日本魂ニヨツテカチ得タノデアル。然モ祖國日本ハ今非常時デアリマス。外交ノ問題、經濟ノ問題種々ノ問題ニ遭遇シテ居マスガ、是等ハ皆國民ノ自重ニヨツテ突破スル事ガ出來マス。最モ憂慮スベキハ是等スベテノ根幹タル思想ノ問題デアリマス。此ノ思想ノ問題ハ之ヲ教育ニ俟ツノ外ナイノデアリマシテ、ソレニハ中學時代ニ於テ堅固ナル思想ガ養ハレネバナリマセン。魂ノ教育・日本精神ノ教育・人格教育・第二ノ眞實ナル國民ヲ養成スル教育、コレガ明中教育ノ眞髓デアルト信ジマス。此ノ圖書館ガ先生ニ對スル謝恩ノ至情ニヨツテ出來上ツタ事ハ世ニ



又トナイ美シイ事デ、愈々如上ノ教育精神ヲ裏ヅケルモノト信ジマス。私共ノ小サイ魂ガ、此ノ圖書館ニ依ツテ、自ラ學ビ自ラ習ヒ先生教育ノ精神ニヨツテ他日國家有爲ノ士トナリ得ル事ヲ思ヒマス時洵ニ深イ感激感謝ニ堪ヘヌノデアリマス。終ニ此ノ記念圖書館建設ニ至ル迄アラユル御苦勞ヲ御願ヒ致シマシタ記念謝恩會ノ役員各位其ノ他ノ方々ニ厚ク深ク感謝スル次第デアリマス。

保護者會總代

衆議院議員 青木雷三郎

### 祝 辭

今日ノ斯ノ盛典ニ列シテ一言祝意ヲ述ベル事ヲ得マシタノハ、私ノ誠ニ光榮トスル所デアリマス。

私ハ山内先生ノ最モ古イ教ヘ子ノ一人デアリマス。先生ガ神戸師範ヲ御卒業ナサツタノハ明治廿七年デ、二十一才ノ時神戸師範教導トシテ私達ノ教鞭ヲ取ツテ下サツタノデアリマス。當時私ハ七才カ八才ノ小兒デアリマシタノデ、全ク當時ノ記憶トテハ何モ残ツテキマセン。イヤ實ヲ申シマスト先生ガ明石ヘ御出デニナツテ再會スル機ヲ得マス迄ハ全ク先生ヲ忘レテキタ様ナ始末デアリマシテ誠ニ申譯ナク且恥シク思フノデアリマス。

今日本校ヲ訪レ本校ノ諸施設ヲ拜見致シマシテ、山内先生ノ御人格ガ到ル所ニ現ハレテ居ルノヲ感じルノデアリマス。先程小西博士ガ御話シニナリマシタ松下村塾ノ事ガ考ヘ合セラレマス。世ヲ擧ゲテ智識偏重ノ教育ニ流レル傾キノアル今日先生ノアルコトハ全ク喜バシイ感ガ致シマス。先生ノ教育タル自ラノ高邁ナル、御人格ヲ以テ生徒ニ臨マレテ居マス。人格ノ人、熱ノ人、實力行ノ人トシテ生徒ニ臨マレテ居マス。先生ニ神戸師範ヲ受ケタ者ガ現在五名アリマスガ、私達ニハ同窓會モ何モナク山内先生ノ當時ヲ追懷スルコトモ出來マセズ全ク淋シイ感ニウタレテ居ルノデアリマスガ、先生ヨリ更ニ古ク神戸師範

ニ奉職サレテ居タ先生ニ、種々先生ノ御話ヲ承ツテ見マスニ、先生ガ御若イ神戸師範ノ先生デ居ラレタ當時カラ、誠ノ人、熱ノ人、實行ノ人デアツタ事、其ノ後四十年間先生ガ終始一貫至誠溢ルル熱ト實力行トヲ以テ教育ニ御精進ナサツタ事ヲ知ツタノデアリマス。其ノ四十餘年ノ教育道デノ御精進カラ今日ノ斯ノ盛典ニ御遭ヒニナツタノデ全ク悦ビニ堪ヘヌ次第デアリマス先生ハ斯ノ記念圖書館ヲ通シテ百年ノ後モ社會ヲ教育セラル、事デアリマセウ。

終ニ此ノ記念事業ニ御參加御盡力下サイマシタ父兄其他諸氏ニ此ノ席カラ厚ク御禮申上ゲル次第デアリマス。

舊神戸師範學校附屬出身者總代

竹田龍太郎

### 祝 辭

時維レ昭和十年四月二十八日、告天子春ヲ沖シ楊柳陰濃ヤカナル頃、山内先生記念圖書館贈呈並ビニ開館式ヲ舉行セララル。生等此盛典ニ參ズルヲ得シ者感懷何物カ之ニ如カム。先生ニハ育英ノ事ニ勵マセラル、コト實ニ四十有餘年、其門下ニ臨マセラル、ヤ恰モ椿萱ノ愛兒ニ於ケルガ如ク、至仁至誠以テ其撫育ニ當ラレ、實踐躬行以テ之ガ範ヲ垂レサセラル。サレバ遠徳ノ士雲ノ如ク、後髦ノ材電ノ如ク、以テ天下ニ光被スルニ至ル。眞ニ罕世ノ教育家ト謂フベシ。茲ニ子弟ガ感謝ハ凝ツテ恩師記念圖書館ヲ設立シ、以テ先生ガ華甲子ノ賀ヲ祝シ奉リ、聊カ報恩ノ微衷ヲ表セントス。生等亦靜岡縣立掛川中學校ニ於テ親シク先生ノ教養ニ浴セシ者、實ニ感激ノ多大ニシテ甚深ナルモノアリテ存ス。先生ニハ任ヲ母校創立多難ノ際ニ受ケ給ヒ、克ク之ガ施設ニ努メラレ、克ク之ガ根幹ヲ樹テラレ、掛中精神ノ培植校風ノ養成ニ全幅ノ熱誠ヲ輸サレシ八十目ノ視ル所、仄聞スル所ニ依レバ、當時先生ニハ殆ド全生徒ノ家庭ヲ訪問セラレ、學校トノ連絡ヲ緊密ニセラレタリト。以テ其全豹ヲトスルニ足レリ。

斯クシテ爾來春風秋雨三十餘年、今尙餘芳ノ芬芬タルモノアリテ存スルハ、如何ニ偉大ナル徳業ノ悠久ニ互ルカヲ徴シテ餘



リアリト謂フベシ。方今特ニ教育ノ振興ヲ要スルノ秋、先生ガ德風ノ治キヲ見テ、欽仰層一層ナルモノアルト同時ニ、先生ニハ益々長壽ヲ保タレ、國家百年ノ爲人材ノ計ヲ達成シ給ハンコトヲ庶幾シテ止マザルナリ。

茲ニ岳崇海監督ナラザル先生ノ恩德ヲ謝シ、謹ンデ祝詞ヲ奉ズ。

昭和十年四月二十八日

静岡縣立掛川中學校卒業生有志總代

第一回卒業生 杉 山 豊 一

### 祝 辭

本日茲ニ山内先生謝恩記念圖書館贈呈並ビニ開館式ガ舉行セラル、ニ當リマシテ、宮津中學校卒業生ヲ代表シテ一言祝詞ヲ述ベ得ルハ、私ノ最モ光榮ト存ズル處デアリマス。宮津中學校デ先生ノ教ヲ受ケタ者ノ中ニハ、文武高官大學教授博士實業家其他知名ノ士モ少クハアリマセンガ、唯私ハ第一回卒業生トシテ最モ古クカラ先生ノ恩顧ヲ受ケ、殊ニ二十二年前本校創立當時暫ク先生ノ部下トシテ本校ニ勤務スルナド特ニ關係ガ深イノデ僭越ヲ顧ミズ、敢ヘテ此ノ席ニ參上シタ次第デアリマス。

山内先生ガ今ノ宮津中學校即チ元ノ京都府立第四中學校長トシテ來任セラレタノハ今カラ三十一年前、即チ日露戰爭ノ始マツタ年ノ秋デアリマシタ。私等ハ未ダ中學校初年級ノ生徒デアリマシタガ、當時ノ事ハ恰モ昨日ノ事ノ様ニ記憶ニ新デアリマス。御着任ノ日カラ短艇競漕ニ會長トシテ活躍セラレタリ、戰死戰傷者ノ弔慰講演ニ奔走セラル、ナド、我々幼イ生徒ノ目カラ見テモ、先生ノ御活動ノ様ハ實ニ目覺マシイモノデアリマシタ。今日明石中學校ハ作業デモ天下ニ有名デスガ、當時既ニ私等ハ中學生トシテ先生ノ下デ庭園ノ開設、コンクリート工事、植樹、道路修繕ナドヲ實科トイフ名デ每週時間割ヲ定メラレテ實行シテキタコトデアリマシタ。實ニ先生ハ我國作業教育ノ開祖デアリマス。教練モ陸軍ノ現役將校ガ來校セラレルト、其ノ

方ニ生徒ノ指揮ヲ執ラシメラレテ、私等モ現役少佐ガ中隊長トナラレ、其トニ小隊長ヲ勤メテ、未ダ習ハヌコトヲ號令セラレテマゴツイタ事ナドガアリマス。其後先生ハ佐倉中學校長トシテ聯隊カラ現役士官ヲ招聘シテ生徒教練ノ指揮ヲ執ラシメテ居ラレマシタガ、是等ハ即チ今日ノ現役將校學校服務ノ制度ヲ先生ハ三十年前ニ實行シテ居ラレタノデアリマス。又適齡前ノ青年ヲ集メテ中學校ノ銃劍ヲ貸シ、中學校ノ教練ノ先生ヲ教官トシテ教練ヲ實施シタリ、地方ノ青少年ノ有志ヲ集メテ簡易ナ中等教育ヲ授ケテ居ラレマシタガ、此等ハ今日ノ青年學校ノ仕事ヲ既ニ此ノ時カラ試ミテ居ラレタノデアリマス。私ハ今更ナガラ先生ノ先見ノ明ニ敬服シテ居ルモノデアリマス。先生ノ御教育ハ頗ル嚴格デ、然モ熱ト情トガ籠リ、又全校ノ個々ノ生徒ニ對シテ一々細イ點マデ親ラ意ヲ注ガレルナド、頗ル懇切デ又徹底セルモノデアリマシタ。先生ノ宮津ニ於ケル御在職ハ必ズシモ長イトハイハレマセンガ、宮津中學校ノ基礎ハ實ニ先生ニ依ツテ大磐石ノ如クニ確立セラレ、歴代ノ校長ハ皆其ノ御方針ヲ承ケテ居ラレルノデアリマス。當時先生ノ教ヲ受ケタ者ハ皆非常ニ強イ深イ感化ヲ與ヘラレ、今テモ相會スル毎ニ必ズ當時ヲ語り、今更ニ先生ノ御薫陶ノ有難サヲ感謝シテキルノデアリマス。又土地ノ人モ其ノ後幾多ノ校長ヲ迎ヘテ居マスガ、皆山内先生時代ノ事ヲ慕ウテ居ルノデアリマス。私等ハ先生ノ御鴻恩ニ對シテハ何ヲ以テシテモ充分之ニ御報イスクトハ出來ヌノデアリマスガ、今回御還曆ニ際シ、謝恩記念圖書館設立ガ計劃セラレマシテ、宮津中學校卒業生モ之ニ參加シ得マシタ事ハ、一同ノ誠ニ欣幸トスル處デアリマス。

本日此ノ地ニ參リ、恩師ノ御健カナ御姿ヲ拜シ、又此ノ立派ナ圖書館ノ工成リ、先生ニ贈呈セラレタノヲ見マシテ歡喜ニ堪ヘマセン。茲ニ衷心ヨリ先生ガ愈々御健康ニシテ百年ノ御齡ヲ重ネラレ、皇國ノ爲ニ御盡瘁遊バサレンコトヲ御祈リスルト共ニ、此圖書館ガ益々内容ヲ充實シテ本校ニ學ブ者ノ修養ニ資スルノミナラズ、地方文化ノ中心トナリ、國運ノ進展ニ貢獻センコトヲ希望致シマス。以上所感ヲ述ベテ祝詞ト致シマス。

昭和十年四月廿八日

京都府立宮津中學校同窓生總代  
三重縣立富田中學校長 從五位 小 林 德 太 郎



## 祝 辭

二八

本日、山内先生御還曆記念圖書館贈與並ビニ開館ノ式典舉行ニ際シ、私ハ千葉縣立佐倉中學校ニ於テ山内先生ノ御薫陶ヲ受ケタルモノヲ代表シテ、是非共參列席末ヲ汚シタイト思ツテキマシタガ、據ナキ所用ノタメコノ盛典ニ參列ガ出來ズ残念ニ存ジマス。

從ツテ親シクソノ竣工モ見御祝ノ詞モ申上ゲラレマセンガ、私ト同ジヤウニコノ盛典ニ參列ハ出來マセンガ、遙ニ心カラノ慶祝ノ誠意ヲ今日ノ盛典ニ寄セテキル先生ノ教ヘ子ガ全國到ル處ニ多數存在スルコトヲ先生並ビニ參會ノ皆様モ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス。

マコトニ先生ノ教ヘ子ハ今ヤ全國到ル處ニ各方面ノ職務ニ從ツテ、國民ノ中堅トシテ活躍シテキマス。コノ意味ダケヲ以テシテモ、先生ハ日本ノ山内先生デアツテ先生ノ御還曆ヲ祝フ企テハ全國的ニナサルベキモノデアリマスガ、明石中學校内ニ記念圖書館ノ竣工ヲ見、本日コノ盛典ガ舉ゲラレタコトハ實ニ所ヲ得、當ヲ得タモノト云ハネバナリマセン。明石ハ先生ノ御郷里トモイヘマスシ、マタ文字通り先生ガ産ミノ親デアル明石中學ニ於テ、先生ハ今マデノ御經綸御抱負ヲ集大成サレル意氣込ミヲ以テ教育ニ當ラレテキルモノト拜察シテキマス。コノ意味デ當校内ニ記念圖書館ガ出來タコトハ、先生ノ御還曆ヲ御祝スルバカリデナク、永ク先生ノ徳ヲ記念スル好箇ノ記念塔トシテ最モ有意義ダト思フノデアリマス。

今日眼ノアタリコノ記念館ヲ前ニシテ先生ニ御ヨロコビノ言葉ヲ申シ上ゲラレヌコトハ遺憾千萬デスガ、遙ニ蕪辭ヲ寄セテ心カラノ慶祝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。終リ乍ラ、先生ニハ更ニ一層御自愛ナサレテ、今日ノ式典ニ倍スル盛典ヲ更ニ私タチニ舉ゲサセル機會ヲ與ヘラレムコトヲ切望シテヤミマセヌ。

昭和十年四月二十八日

千葉縣立佐倉中學校同窓生代表 東京日日新聞社整理部長 高田元三郎

## 祝 辭

本日山内先生還曆記念圖書館贈呈並ビニ開館ノ盛典ニ列スル事ヲ得マシタノハ、私ノ洵ニ欣喜ノ情ニ堪ヘヌ所デアリマス。先刻モ御話シノアツタ如ク、今日ノ教育ガ種々ノ方面カラ圖書館ヲ最モ必要トスル事ハ今更喋々スル迄モアリマセヌ。斯ノ今日ノ教育ニ缺クベカラザル圖書館ガ、先生ノ還曆ヲ機トシテ先生ニ對スル舊教ヘ子達ノ謝恩ノ至情ト特志家ノ教育ヲ思ハル、眞情ノ華トシテ美シク咲キ出タ事ハ、全ク先生ノ高格ノ賜デアリマシテ、先生ノ教ヘ子トシテ全ク悦ビニ堪ヘヌ所デアリマス。

山内先生ハ夙ク知情意ノ合一シタ教育、今日特ニ聲高ク唱ヘラレル作業教育ヲ三十餘年ノ昔カラ重視セラレテ居マス。私ハ最近山口縣ニ赴キマシタガ、山内先生ノ居ラレル明石ニ作業教育ノ完成サレルノハ不思議ハナイ。トノ言葉ヲ耳ニシテ、先生ノ教育ノ御卓見ニ今更ノ如ク感激シタノデアリマシタ。更ニ先生ハ軍隊教育ノ學校教育社會教育ニ有意義ナル事ヲ確信セラレテ是亦三十餘年ノ昔カラ學校教練青年訓練ヲ行ウテ來テ居ラレマス。要スルニ先生ノ御教育ハ表面的ナ知的教育デハナクテ、全人格全生命ヲ打込マレタ魂ノ教育デアリマス。思想難ノ聲ノ高イ今日ノ日本ニ缺クベカラザル眞ノ教育デアリマス。

私ノ母校岡山縣關西中學校ハ、先生御來任前ノ大正元年頃多少校風ノ紊亂ヲ見テ居タノデアリマシタガ、稀ニ見ル名校長山内先生ノ御來任ヲ得テ、先生御一人ノ御人格ニヨツテ他ノ縣立中學校ニ優ルトモ劣ラヌ私學ニ御導キ下サツタノデアリマス。先生ガ岡山ヲ去ラレタ後モ、先生ガ關西中學ニ扶植セラレタ精神ハ、山ノ如ク高ク水ノ如ク深ク、彼ノ學園ニ残り流風餘韻久シウシテ今日益々光輝ヲ放ツテ居ルノデアリマス。

今日山内先生ガ四十幾年至誠一貫教育ニ御精進サレタ美果トシテ斯ノ教育ノ爲ノ記念圖書館ヲ得ラレマシタ事ハ、誠ニ先生ノ爲延イテハ日本教育界ノ爲ニ欣喜ノ情ニ堪ヘマセヌ。

一言述ベテ祝辭ニ代ヘル次第デアリマス。

二九



### 祝 辭

山内先生謝恩記念圖書館が茲ニ芽出度ク竣工ヲ見マシタ事ハ、吾々明中同窓生ニトリマシテ此ノ上モナイ喜ビデ御座イマス。最モ多感ナル青少年時代ヲ先生ノ御薫陶ノ下ニ過シ得マシタ事ハ、吾々ノ最モ大イナル幸福デアリマス。日ニ日ニ崇高ナル御人格ニ接シ、高遠絶大ナル思想ヲ以テ御薫育下サレ、宇宙ノ氣魄ト相通ズル自強不息ノ精神ノ下ニ吾々ハ自治協同創造ノ校訓ノ實現ヘト目指シマシタ。先生ノ親心ヨリ出ヅル暖キ御教導ニ從ヒ、天地ノ間ニ漲ル生々發展ノ氣ニ浴シナガラ、此ノ天惠豊カナ自強ク丘ニ幸福ナル中學生活ヲ送ル事ガ出來マシタ。又生等母校ヲ巢立ツテ後モ、先生ニハ數多クノ卒業生ヲ一人殘ラズ學校時代ト少シモ變ラズ、否其レニモ増シテ暖キ親心ヲ以テ御教導下サイマス。此ノ親心コソ教育ノ根本精神デアリ、生等ガ幸福ナル中學生活ヲ送ル事ノ出來マシタノモ、偏ニ先生ノ眞心ヨリ出ヅル暖キ親心ニ負フ所デアリマス。又先生ガ生等ノ教育ニ臨マルル御態度ハ全ク至誠其ノモノデアリ、此ノ至誠ノ發露身ヲ以テ教育ニ當ラレル御態度コソ、正ニ生等ガ先生ノ御人格ヲ仰ギ先生ニ深く傾注シ奉ル所以ノモノデアリマス。全ク喜バシクモ、茲ニ先生ノ御還曆ヲ祝シテ謝恩記念圖書館ガ完成致シマシタ。先生ノ教育ノ根本精神ガ此處ニ在リ、永ヘニ生等ヲ否全社会ヲ指導スル魂ノ殿堂トナリ、廣ク人文發展ノ爲ノ創造ノ源トナルデアラウト信ジマス。

茲ニ一言明中同窓生ヲ代表致シマシテ祝辭ヲ述ベル次第デ御座イマス。終ニ此ノ事業實現ノ爲、種々御盡力下サイマシタ御方々ニ對シ深キ感謝ノ意ヲ表シマス。

昭和十年四月廿八日

兵庫縣立明石中學校同窓會總代

羽 子 岡 勇

### 祝 辭

春光燦トシテ降リソ、ギ、萬物青々トシテ發展シテ止マザル今日ノ佳キ日、日出タクモ山内校長先生謝恩記念圖書館ノ贈呈式並ビニ開館ノ式ヲ舉行セラレルコトハ私共親シク先生ノ膝下ニ御薫陶ヲ受ケテキマス者トシテ、是ニマサルノ感激ハナイノデアリマス。

先生ガ常ニ説カレマスノニ、恩ヲ知ルハ最大ノ智識デアリ、恩ニ感ズルハ最大ノ感情デアリ、恩ニ感ジテ事シアラバ火ニモ水ニモ入りナントイフ精神ガ人間絶大ノ意志デアルト聞イテ居リマシタ。時ニ先生ノ教ヘ子先輩達ガ先生ノ還曆ヲ機トシテ記念圖書館ヲ贈呈シ、以テ先生ノ御恩ニ感謝ノ誠ヲ披瀝セラレマシタ。然シ私達ハ學生ノ身デ、貧者ノ一燈シカ捧ゲルコトガ出來マセンデシタ。然シ私達ハ二宮尊徳先生ガ一人前デナイカラトテ、夜ハ草履ヲ作ツテ川ノ人夫達ニ履イテモラツク様ニ、暑イ夏ノ日モセツセト地均工事ニ從事シテキマシタ。建築工事ハドシドシ進ンデ、私達ハ毎日々々今日ノ完成ノ日ニ近ヅクノヲ見テ嬉シク心ガ躍ルノデアリマシタ。圖書館モ殆ド完成ニ近ヅクト、周圍ノ植木ヤ芝生ヲツケテ、私達ノ永久ノ記念品デアアル此ノ圖書館ガ出來上ツタノデアリマス。

コ、ニ圖書館ノ完成ヲ見、併セテ贈呈ノ式ガ行ハレマスコトハ、過去四十年ニ亘ツテ實ニ熱心ソノモノノ如ク教育ノ爲ニ自己ヲ捧ゲテ來ラレタ先生ニハ、サゾ御満足ニ思ハレルコトト思フノデアリマス。私共生徒モ先生ノ喜ビハ即チ私共ノ喜ビトシテ、只胸ノ奥底ヨリ感慨無量ナルモノガ湧出ルバカリデアリマス。今ヤ開館ノ運ビトナリ、私共明中生徒ハ圖書館ニヨリ無上ノ幸福ヲ與ヘラレル様ニナリマシタ。誠ニ感謝ニ堪ヘナイ所デアリマス。

春風胎蕩トシテ日光ノ燦々ト輝キ、翻々ト翻ヘル自強旗ノ下ニ、私達ガ作業ニヨツテ作ツタ草花ガ春ヲ誇ツテキルト共ニ、此處ニ世ニモ美シイ人情ノ結晶ニヨツテ出來タ留魂ノ花ガ立派ニ咲イテ、其ノ馥郁タル香ハヤガテ日本ノ教育ニ立派ナ實ヲ結バセテ其ノ指導者トナルデアリマセウ。此ノ前途アル圖書館ヲ堅實ニ愛護シ、之ヲ最善活用シテ留魂堂ノ名ニ恥ヂザル圖書館



設立ノ目的ヲ果スコトハ、私達ノ當然ノ義務トシテモリ立テテ行ク覺悟デアリマス。  
終ニ校長先生ノ益々御身體ノ強健ニシテ、躍進日本ノ教育ノ爲力ヲ盡サレンコトヲ願フモノデアリマス。聊カ蕪辭ヲ述ベテ  
祝辭トスル次第アリマス。

昭和十年四月二十八日

在校生總代 宇佐美忠雄

元京都市府與謝郡長 山本三省

賀 還 曆

六十路經てあまることしの一年を

千歳の旅のはじめにはせよ

山内學兄還曆記念圖書館の建設をこぶきて

花も咲け實をもむすべといのるかな

君がかたみの文の林に

○ 祝 電 (順序不同)

御盛典ヲ祝ス	本日ノ御盛典ヲ祝シ、貴下ノ御健康ヲ祈ル	盛典ヲ祝ス	記念圖書館ノ献呈ヲ受ケラレタル光榮ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス	遙カニ御祝ヒ申上グ	謹ミ畏ミテ山内先生ノ御高德ヲ仰ギ、謝恩記念ノ盛典ヲ祝シ奉ル	意義深キ盛典ヲ祝ス	御美學御盛典ヲ心カラ御祝ヒ申ス	御盛典ニ當リ兄ガ三十餘年ノ功績ヲ偲ビ、遙カニ滿腔ノ祝意ヲ表ス	盛典ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス	御盛典ヲ祝ス
静岡高等學校長	縣會議員	東京高等師範學校教授	廣島高等師範學校教授	姫路高等學校長	御影師範學校長	姫路師範學校長	東京明星中學校長	埼玉縣立本庄中學校長	香川縣立丸龜中學校長	和歌山縣立和歌山中學校長	福島縣立福島中學校長	岡山關西中學校長	東京府立第一中學校長	京都府立宮津中學校長	愛媛縣立松山中學校長
金子健三	田中源三郎	馬上孝太郎	津山三郎	木村善太郎	安井清雄	苦瓜惠三郎	兒玉九郎	金子道啓	嶺鍊次郎	奥源次	一谷源八郎	能勢頼俊	西村房太郎	森田新三	雨宮新七



祝意ヲ表ス  
 還曆ノ記念ヲ祝ス  
 御盛儀ヲ祝シ、邦家教育界ノ爲御自愛ヲ祈ル  
 御盛典ヲ祝ス  
 盛典ヲ祝ス  
 御盛儀ヲ祝ス  
 圖書館ノ落成ヲ祝ス  
 御榮譽ノ御式典ヲ祝ス  
 謹ミテ開館ヲ祝ス  
 本日ノ式典ヲ祝ス  
 御盛典ヲ祝ス  
 遙カニ御盛儀ヲ祝ス  
 贈呈式ニ當リ、遙カニ御健康ヲ祝ス  
 今日ノ御盛典ヲ欣ビ貴官ノ御健康ヲ祈ル  
 謹ンデ開館ヲ祝ス  
 贈呈式ヲ祝シ、併セテ委員ノ勞ヲ謝ス

三四

千葉縣成東中學校長	中山音彌
兵庫縣立龍野中學校長	山田宇三郎
新居濱高等女學校長	白石捷一
姫路師範學校主事	石崎恒次郎
神戸親和高等女學校長	和田豐
印南郡伊保村	中谷竹藏
揖保郡小宅尋常高等小學校長	上田重路
灘中學校教頭	阿部常次
元明石市土木課長	鈴木香二
神戸市屯田病院長	田所長治
金澤三越支店長	前田三郎
京都府峰山町醫師	大槻房吉
	棉田國藏
	工樂平四郎
	西海太郎
明石中學同窓會東京支部	

○ 答 辭

山内佐太郎

茲ニ私ノ如キ薄徳非才ノ者ニ對シテ「謝恩記念會」ヨリ結構ナル記念圖書館ヲ御贈與下サイマシタ事ハ誠ニ感激ニ堪ヘマセ  
 ン。獨リ私一人ガ感激ニ堪ヘナイバカリデナク私ノ一家一族私ヲ信ズル生涯ノ教ヘ子何レモガ深ク感激シテ居マスコトハ先刻  
 來私ノ生涯ノ教ヘ子縁故者デアリマスル舊神戸師範附屬小學校ノ出身者ヲ始メ掛川、宮津、佐倉、岡山ナドノ同窓生達ノ祝詞  
 又ハ感激ノ辭ニヨリマシテ私ハ教育當事者トシテ無上ノ感謝ヲ表セズニハ居ラレマセン。

昨年私ノ還曆ニ際シ謝恩記念會ヲ御組織下サイマシタ時、私ハ自ラ省ミテ衷心慚愧ノ情ニ堪ヘナカツタノデアリマシタガ、  
 唯私ハ一身ヲ離レテ斯ノ教育トイフ聖業ニ立歸リマシタトキニ謝恩ハ教育ノ生命デアアル。一輪ノ花モ理智ヤ慾得デ咲カナイ、  
 況シテ萬物ノ靈長タル人間ノ魂ノ養成ニハ天ノ心、天地ノ大愛タル誠ガ生命デアアル。感恩ノ誠心ハ天地ノ眞理、宇宙ノ眞生命  
 ノ發露デアルト信念スル外アリマセン。

人間萬事恩ヲ知ルハ最大ナル智識、恩ニ感ズルハ純粹ノ人情、恩ニ報イルハ絕對ノ意志デアアル。  
 我が日本精神ノ眞髓ハ畢竟感恩ノ誠心ニ外ナラヌ。我が日本精神ノ表象タル三種ノ神器ノ鏡ハツマリ恩ヲ知ル明智、璽ハ恩  
 ニ感ズル純情、劍ハ恩ニ報イルタノ水火ヲモ辭セヌ即七生報國ノ絕對意志デアアル事ヲ信ズル外アリマセン。  
 斯カル教育精神ニ立歸リマシテ謝恩會、其ノ記念事業タル圖書館ヲ甘ンジテ拜受スルニ至リマシタ此ノ微衷ヲ御諒察下サル  
 ヤウ御願申上ゲマス。

然ルニ時間ニ於テハ四十余年ニ亙リ空間ニ於テハ日本中否海外ニモ及リ三千余名ノ會員ノ御誠心ノ結晶トシテ此ノ立派ナル  
 記念圖書館ヲ建築竣工下サイマシテ本日茲ニ御鄭重ニ贈與式ヲ御舉行下サイマシテ皆様ノ御列席ノ下ニ謹ミテ拜受スル光榮ヲ  
 得マシタ事ハ衷心感激ニ堪ヘマセン。



唯今本縣長官閣下御代理ヲ始メ特ニ御繁忙ノ御中ヲ京都カラ態々御臨席トサイマシタ前京都帝國大學總長小西重直先生外多數ノ御熱誠ナル御祝詞ヲ賜ハリマシタ御賞辭ハ不肖私ニハ當リマセンガ幸ヒニ私ハ尙未ダ健康ニ惠マレテ居マスノデ自今將來斯ノ御祝規ニ副フベク一層ノ大精進ヲ致シタイ覺悟デアリマス。

尙本日茲ニ特ニ感謝ヲ表セズニ居ラレマセンノハ此ノ記念圖書館建設ノ爲ニ可愛イ本校生徒ガ流汗鍛鍊ノ作業教育トハ謂ヒナガラ地均シ工事造園其他ノ諸作業ヲ致々トシテ勵ンデ誠心ヲ盡シテ呉レタ事デアリマス。昨日モ彼ノ圖書館内部ノ掃除ヲ手傳ヒニ來テクレマシタ私ノ宅ノ女中マデガ生徒サンガ一心ニ作業サレルノニ感心致シマシタト言ツテ居マシタ。宅ノ家内モ喜ンデ呉レマシタ。前田先生ノ奥様モ深ク悅ンデ下サイマシタ。

又貳萬四千餘圓ト言ツタ贈金ニツキマシテ生徒ノ中ニハ暑中寒中ニ灘購買組合ヤ大丸ニ出働キ致シマシテ其ノ謝禮ノ一部又ハ全部或ハ貯金ノ全部或ハ一ヶ月拾錢宛節約又ハ働キ出シテ全部ノ生徒ガ壹圓ヅツ贈金シテ呉レタ事ハ、三十餘年來私ノ主張ノ作業教育ノ爲ニ私ハ無上ノ満足ト感激トヲ覺エル次第デアリマス。

又父兄ノ方々ハ深ク厚ク此ノ記念事業ニ御關心ヲ御持チ下サイマシテ此ノ事業達成ノ爲ニ或ハ特ニ日掛貯金ヲ行ヒ或ハ特ニ家庭作業ヲ起シナド致サレテ一方ニハ家庭訓育ノ事ヲハカル機會トシテ一家學ヲ誠ニ涙グマシキ關心ヲ持ツテ下サツタ事或ハ御母サマ、御祖母サマノ幼少ノ時カラ積マレタ貯金ヲ投ゲ出シテ御寄附下サツタ事サヘアリマス。或ハ先代ノ御命日ニ當ツテ其ノ御愛藏書ノ全部又ハ一部ヲ下サツタ事、或ハ一家協力一致シテ特ニ多額ノ金員ヲ御寄附下サツタ御家モアリ、今更追懷スル毎ニ私ハ感激ニ堪ヘマセン。

最後ニ胸像ノコトデアリマスガ、私ハ胸像ナドハ絕對ニ辭退シテ居マシタノガ本會ノ役員方々ノ御誠心溢レテ事茲ニ至ツタ次第デアリマス。

茲ニ謹ンデ重ねテ感謝ノ誠心ヲ表シ誓ツテ將來益々日本國民教育ノ理想ニ忠實ニ行ハ一步一步ヨリ、天壤無窮ノ皇運扶翼ノ爲ニ時々刻々大精進以テ私ノ全力ヲ盡クシテ死シテ尙已マザル覺悟デアリマス。

## ○ 開館ノ辭

山内 佐太郎

圖書館教育ノ學校教育並ビニ社會教育上ニ重大ナル地位ヲ占ムルコトハ言フ俟タナイノデアリマスガ、私ハ去ル大正五年米國教育視察中ニ感心シマシタ一事ハ彼國ノ圖書館教育ノ發達デアリマシタ。人口一萬モアル處ニハ必ず圖書館ノ設置ガアリマシテ而モ能ク利用サレテ居マス。私ハ去ル大正十一年明石ノ地ニ赴任イタシマシテ先ヅ一番ニ思ツタ事ハ圖書館教育ノ事デス明石向キノ圖書館ノコトデス。爾來幾タビカ有志ノ方々ト諮リマシテ明石圖書館設立ノ事ヲ企圖致シマシタガ微力及バズソノ實現ニイタリマセンデシタガ、圖ラズ茲ニ設立開館ヲ見ルニ至リマシタ事ハ私ハ欣喜ノ情ニ堪ヘマセン。

思フニ圖書館教育ノ重要性ノ第一ハ、學生生徒ニ自學自習ノ誠心ヲ喚起スルコトデアリマス。明ルイ自由ノ天地ニ自ラ活智識ヲ與ヘルコトデアリマス。試驗ノ爲ノ勉強ヤ或ハ他カラ引ヅラレテ與ヘラレタ知識ハ生キマセン。眞ニ役立つ人格ニ編ミ込マレタ活キタ知識ハ自學自習ニ依ル所謂創造的ニ學ンダ知識デアリマス。此ノ意味ニ於テ學校圖書館ハ必ず必要デアリマス。愈々開館ノ上ハ極力生徒ノ自學自習ヲ獎勵指導致シマシテ彼ノ受動的ナル詰込教授カラ免レテ生徒ノ自學自習ニ依ル所謂創造的學風ヲ建設シタイノデアリマス。

第二ノ重要性ハ社會教育ノ爲デアリマス。眞面目ニ世ニ立チ所謂入ツテハ恭儉勤儉ヲ治メ業ニ服シ出デテハ一個ノ利害ニ偏セズ公益世務ニ盡クス有用ノ人物ニ必要ナモノハ其ノ渴ヲ醫スル活泉、其ノ疲レヲ復スル滋養物デアリマス。圖書館ハ致々營々ト至誠勤勞息マザル人士ニ無上ノ慰安ト營養トヲ與ヘ、其ノ元氣ヲ恢復増進セシムルコロノ活キタ泉デアリ、清キ水デアリ又營養ノ價值アル食物タルモノデアリマス。延イテハ國家興隆ノ本タル國民精神作興ノ原動力タルベキモノデアリマス。私ハ斯カル意味ニ於テ明石圖書館ヲ渴望シテ居タノデアリマス。幸ヒニ茲ニ設立ト同時ニ此ノ社會教育ノ爲明石圖書館ノ使命ヲ果シタイ心得デアリマス。



私が現ニ在職中ノ斯身デアリナガラ厚釜シクモ此ノ圖書館ノ寄贈ヲ受ケマシタ決心ノ最大ナルモノハ私が在職中ニ此ノ圖書館教育ノ使命ヲ果シタイノデアリマス。即チ重ネテ申述ベテ置キマスガ、内ハ生徒ノ創造的學風ノ振作ノ爲外ハ民衆ノ實質向上進展ノ活力作興ノ爲圖書館ヲ經營シタイノデアリマス。

幸ヒニ此ノ圖書館ハ三千餘人ノ誠意ノ結晶デアリマス。誠意ホド明ルイ強イ正シイ大キイモノハアリマセン。天地ヲ支持スル力デアリマス。宇宙絶對ノ眞理デアリマス。眼ニ見エヌ神ト通フ宇宙絶對ノ生命ノ係ル所デアリマス。庶幾クハ此ノ絶對ノ誠意ヲ以テ寄附者諸君ノ誠心ヲ體シ宇宙ノ眞生命ヲ此ノ圖書館ニ活躍サセタイノデス。智識ハ世界ニ求メルノデアリマスガ、大イニ日本ノ皇基、神州ノ神州タル日本精神ヲ振起シタイノデアリマス。幸ヒニ維持ニツキマシテハ既ニ月額三十圓宛特志家ノ寄附ノ申込ガアリマシタ。又内容充實ニツキマシテハ

- 一、圖書充實會ニヨリ五ヶ年間ニ約一萬圓ノ圖書ガ購入出來マス。
  - 二、保護者會ハ先日委員總會ノ決議ニヨリ年々五百圓宛圖書購入又ハ設備充實ノ援助ヲ下サルコトニナリマシタ。
  - 三、校友會モ僅カナガラ年額幾百圓カノ圖書購入ガ出來マス。
  - 四、謝恩會員中ニ著書又ハ讀ミ餘リノ良書ヲ寄贈下サイマス方ガ續々アリマス。
  - 五、特志家ノ寄附又ハ寄贈或ハ保管委託ガアリマス。
  - 六、特ニ維持會サヘ計劃サレテ居マス。今日尙未ダ發表ニ至リマセンガ此ノ圖書館ノ維持充實ノ爲ニ計ラレテキマス。
- 此ノ如ク維持充實共ニ大方針ガ立ツテ居マスノデ私ハ安ンジテ之ヲ拜受致シ次第デアリマス。
- 尙既ニ本懸ニ寄附ヲ申出テ居リマスガ、不日寄附御採納ニナリマシタ曉ニハ私ハ本校校長トシテ飽クマデ忠實ニ此ノ圖書館ノ經營ニ當リマシテ各位ノ誠意ニ酬イタイ覺悟デアリマス。
- 重ネテ三千餘人ノ寄附者ノ御誠意ト天地ノ大恩ト皇恩ノ無邊トニ對シマシテ感謝ノ誠心ヲ捧ゲマス。
- 昭和十年四月廿八日  
兵庫縣立明石中學校長 山内佐太郎

### ○工事關係者へ贈呈シタル感謝狀

#### 感謝狀

今林彦太郎殿

山内記念圖書館建設贈呈ノ議決スルヤ君ハ本會ノ委囑ニヨリ全ク奉仕的ニ圖書館設計及ビ工事監督ノ勞ヲ執ラレタリ 今ヤソノ勞ハ報イラレテ明石ノ一角自強ヶ丘ニ其ノ偉容ヲ仰ギ得ルニ至レリ 今後此ノ圖書館ヲ中心トシテ地方精神文化ノ發達ニ資スルノ日近キヲ思ヘバ轉々喜ビノ情ニ堪ヘズ 茲ニ贈呈並ビニ開館ノ式ヲ舉行スルニ當リ謹シテ感謝ノ誠意ヲ披瀝ス

昭和十年四月廿八日

山内先生謝恩記念會長 正四位勳三等 古宇田實

#### 感謝狀

大塚泰殿

山内記念圖書館建設贈呈ノ議決スルヤ君ハ本會ノ圖書館建設ノ工事ヲ請負ハレ爾來汝々トシテ奉仕的ニ其ノ工ニ從ハレ僅カ數月ニシテ竣工ノ偉容ヲ明石ノ一角ニ仰ギ得ルニ至レリ 今後此ノ圖書館ヲ中心トシテ地方精神文化ノ發達ニ資スルノ日近キヲ思ヘバ轉々喜ビノ情ニ堪ヘズ 茲ニ贈呈並ビニ開館ノ式ヲ舉行スルニ當リ謹シテ其ノ多大ナル功勞ヲ感謝シ金盃一個ヲ贈呈シテ滿腔ノ誠意ヲ披瀝ス

昭和十年四月廿八日

山内先生謝恩記念會長 正四位勳三等 古宇田實



○列席者芳名

(敬稱略、五十音順)

四〇

青木雷三郎	石井 勇吉	石橋 利之	石倉 荻藏	今林彦太郎	池田 龜藏	岩崎 虎三	岩崎 章
石山清次郎	稻山 稔	伊藤吉之助	岩林 茂雄	石原 惣一	市原 用	市岡 糾	井上 正直
植田 信治	大塚 勝治	大塚 泰	大村 信一	大野部一郎	大野 實	大森 貞治	大原 淺吉
生沼 勝	岡村 甲	岡本 善治	岡田 五兔	小野寺強彌	大山 登	小倉 藤吉	上村勲兵衛
河井昇三郎	鴨川 利一	金井 省治	柏木清太郎	兼古 與市	糟谷 寛	河合 武美	勝沼 精藏
黒川 安治	小林 市郎	小林徳太郎	國賀 至	小西 重直	古字田 實	佐伯 千尋	佐藤 美也
酒井榮太郎	佐藤 佐一	佐野 好雄	島田 信一	城後 仁吉	杉山 泰二	末吉文四郎	須賀 榮一
鈴木 武	添田 兵造	財田 虎夫	多木榮次郎	辰巳善三郎	爲田 精一	竹中 庄作	高野太三郎
伊達 友俊	竹田龍太郎	丹田文之助	辻 甚三郎	土本與左衛門	土岐 義政	苗村菊太郎	中村 芳雄
中島猶次郎	西田 唯市	西村 光雄	野澤實之助	野村 經徳	服部 紀雄	服部 鶴吉	原井 雅美
長谷川三郎	林田 耕作	分玉 巽	藤原 市郎	藤田 兵吉	深瀬 信夫	深瀬 順也	福井 宗吉
本莊 光和	松村 由松	松田 庄司	前瀧 千伊	松本 義雄	光延 義民	宮本 長治	宮本 英雄
村津 重吉	森 敬三	八木 慶雄	山田 梅藏	山内 吉治	山崎 輝雄	八木新一郎	山内 武夫
吉田 卯吉	横山 新藏	吉村 繁夫	吉川 吉治				

○締切後到着シタル寄附者芳名

ア之部	一金拾圓也	明石市聯合女子青年團
カ之部	一金五圓也	加藤 信義
コ之部	一金五拾圓也	古字田 實
ス之部	一金拾圓也	鈴木 武
タ之部	一金五圓也	田淵慶次郎
ナ之部	一金參拾圓也	仲田 哲子
ニ之部	一金五圓也	西海 重次
ハ之部	一金五圓也	長谷川 永一
ホ之部	一金五圓也	堀 吉次郎
マ之部	一金五圓也	松浦 敬藏
モ之部	一金五圓也	森本 捨三
ヤ之部	一金參拾圓也	山崎 太郎
	一金拾圓也	安井 次郎
	一金五圓也	山下 龜藏
		内藤 三郎
		中西 鹿三
		小山 正治



# ○山内記念圖書館記事

## 一、記事

昨年八月整地作業開始以來約八ヶ月ヲ經テ、昭和十年四月五日當圖書館ハ山内記念圖書館ト名付ケラレ、「大楠公ノ精神ヲ以テ天壤無窮ノ皇運扶翼ノ目的ノモトニ」本校々庭ノ一隅ニ其ノ雄姿ヲ現ハスニ至ツタ。四月四日京都帝大農學部圖書室、目黒加一氏來校、五日間ニワタツテ圖書ノ整理及ビ其ノ他事務一般ニ關スル指導ヲ行ハレ八日夕刻歸京セラル。四月二十八日、前京都帝大總長小西博士、松本縣教育主事多木代議士ヲ始メ幾多ノ名士及ビ來賓父兄ノ列席ヲ得テ盛大ナル開館贈呈式ヲ終リ、五月十一日渡邊本縣學務課長及ビ中村屬來校視察アリ、同廿五日、松平子爵、明石ノ古老前田、八田杉山、小野、小山諸氏ト同伴ニテ來校視察アリ、更ニ同月廿六日本校創立記念日ニハ父兄諸氏ニ隨意參觀ヲ乞ヒ、同廿九日本縣參事會員其ノ他九名同道ニテ本校會計檢査ノ爲來校視察アリ、六月十四日宮城縣學務部長久安博忠氏來校視察アリ同十六日本縣視學、松下、山崎、嵯峨各視學及ビ難波御影師範主事來校視察アリ、當日滋賀縣立虎嶺中學校長龜田啓二氏來校視察アリ。其他知名ノ參觀人數十名ニ達セリ。

圖書閱覽ハ五月六日ヨリ開始、入場者ハ一日ト其數ヲ増

加シツツアリ。

## 山内記念圖書館入場者

昭和十年四月二十九日ヨリ六月十八日迄

參觀者 七四三名  
 館内利用者 二八名  
 生徒使用者 一、〇〇七名  
 延人員 二、〇五二名

## 二、圖書館係員ノ組織及ビ其任務

一、本校職員中ヨリ若干名理事ヲ委囑シ中三名ヲ常任理事トス  
 常任理事ハ學校長ノ意ヲ依シ圖書館係員及ビ其他ノ協力ヲ得テ圖書館ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス  
 理事ハ毎日一名ヅ、交替當番制ニヨリ、圖書館内外ノ管理、監督及ビ圖書ノ出納、整理ヲ行フ

一、自習監督教師  
 指定自習時間(成規ノ校時内ニ於テ割當テラレタル)ニハ主トシテ、當該擔當教師ニ於テ其ノ監督ノ任ニ當ル

一、專任事務員

專任事務員一名ヲ置ク、事務員ハ圖書館事務一切ヲ擔

當シ、兼テ備品ノ保管ヲ掌ル

## 一、生徒委員

生徒中ヨリ若干名ノ委員ヲ任命シ、監督教師ノ下ニアリテ、圖書ノ貸出シ、返納、整理並ビニ室内ノ整頓ニ當ル

委員ハ特ニ毎日閉館後職員指揮ノ下ニ圖書ノ點檢ヲ精密ニ行フベシ

生徒委員ハ所定ノ腕章ヲ着用ス

## 館内規律

一、館内ニテハ絕對ニ靜肅ヲ旨トシ、足音、戸障子ノ開閉ニモ注意スベシ

一、閱覽室其ノ他ニ土足ハ勿論、上靴ノマ、ニテ上ルベカラズ

一、館内ニテハ帽子ヲ被ルベカラズ

一、備付ノ圖書及ビ器具、床、壁等ノ設備ヲ汚損スベカラズ

一、筆記ニハ成ルベク鉛筆ヲ使用シ、インク壺ヲ持チ込ムベカラズ

一、紙屑、鉛筆ノ削リ屑等ヲ散亂スベカラズ

一、圖書ノ閱覽又ハ自習ノ際必要以外ノモノヲ携帯スベカラズ

一、生徒ハ必ず玄關口以外ノ處ヨリ出入スベカラズ

一、一般生徒ハ妄リニ閱覽室以外ノ所ニ立入ルベカラズ

閱覽規定

一、圖書ヲ借覽セントスルモノハ所定ノ借覽用紙ニ圖書番號、圖書名、月日、學年、組、番號及ビ姓名ヲ明記シテ出納係ニ提出スベシ

一、閱覽者ハ同時ニ一冊以上借覽スルコトヲ得ズ

一、指定自習時間ニハ特ニ必要ト認メザル限リ辭書以外ノ

## 三、山内記念圖書館圖書閱覽

### ニ關スル生徒心得

## 一般注意

一、本館ヲ使用セントスル者ハ特ニ感恩ノ精神ヲ忘ルベカラズ

## 開館日時

一、指定自習時間(成規ノ校時内ニ割當テラレタル自習時間)

一、一般閱覽時間(日曜、祭日及ビ其他ノ休日ヲ除キ毎日放課後二時間)



- 一、一般圖書ハ貸出サズ
- 一、圖書ノ閱覽ハ必ず閱覽室内ニ限ル
- 但シ特殊研究ノタメニ學年當該學科受持教師ノ必要ト認メタルトキハ一冊ヲ限リ一週間以内帶出借覽スルコトヲ得
- 一、借覽ノ圖書ニ對シテハ常ニ敬愛ノ念ヲ失フベカラズ尙記入、折込等ニヨツテ汚損ノ行爲アルベカラズ
- 一、借覽圖書ハ一切又貸ヲ嚴禁ス
- 一、借覽圖書返却ノ際ハ係員ニ於テ借覽用紙ニ捺印シ返納ノ證トス

#### 四、在庫圖書

	和漢書	洋書	辭書	合計	
	188	258	584	1,787	
1	851		61	20	
	6	109	16	67	
1	1,045	367	661	1,874	
	末吉文四郎氏寄贈	庄田健男氏寄贈	明石中學校保護者會	明石中學校校友會	

10	11	5	1	5	2	1	5	18	6	36	76	327	2	5	
												6		1	
												39	1	29	
10	11	5	1	5	2	1	5	18	6	36	76	372	3	6	
長野英吉氏寄贈	森城太郎氏寄贈	毛利元智氏寄贈	川島精三氏寄贈	北後麟三郎氏寄贈	村田四郎氏寄贈	岩崎定氏寄贈	目黒加一氏寄贈	米原定氏寄贈	山鳥修治氏寄贈	金子平次郎氏寄贈	東照男氏寄贈	和田榮一氏寄贈	關西學院中會寄贈	帝國書院寄贈	野村經德氏寄贈

合計					合計	
4,402	1,050			1	19	5
1,015	75					
352	15	35	35			
5,769	1,140	35	35	1	19	5
	山内佐太郎氏寄贈	多木三良氏寄贈	湊謙治氏寄贈	分玉巽氏寄贈	森季廣氏寄贈	杉山泰三氏寄贈

(學校圖書ハ右ニ含マズ)

#### ○記念圖書館整地日誌

最初の計劃は十月上旬建築に着手する豫定であつた。整地を九月一杯に完成すべく準備萬端を整へ、第二學期早々着手することとした。

八月二十八日 火曜日 晴  
 明石公園の江口技師・小林技手外三名來校、直ちに測量に着手された。

八月二十九日 水曜日 晴  
 小林技手外三名來校、關係職員と共に敷地の測量をなす。

九月三日 月曜日 晴

本日より課外作業を開始し、一年生の有志三十九名は擔任教師・西村先生指揮の下に最初の鍬を入れた。殘暑厳しく職員も生徒も汗みどろになつて、表土を西方に運んだ。午後三時解散。

九月四日 火曜日 晴

一年生に負けじと、今日は二年生の有志約五十名居残り、前日に引き続き表土の運搬に従事した。擔任先生の御計ひで、前後列の二班に分れ、各班交代で働いた。緊張と解緊の調和がよく、能率の點から云つてもこの方がよい様だ。

九月五日 水曜日 雨

九月六日 木曜日 晴

三年有志の課外作業。

昨日の慈雨で唐鍬の必要がない。いきなり、シャベルで表土を起すことが出来る。お蔭ですばらしく能率が上つた。

九月七日 金曜日 晴

五年生四名は小林技手・生田先生指導の下に敷地の高低を測量した。

植木職の秋定氏に命じ生垣の掘り上げを開始す。今日から土方人夫を入れることにした。

四年生有志の奉仕作業。腕に自信のある者は土方に負けじと鶴嘴を振り、殘餘の者は掘り取られた土を低い所へ運ん



だ。

九月 八日 土曜日 雨

九月 九日 日曜日 雨

九月 十日 月曜日 晴

小林技手・生田・赤木兩先生指導の下に六名の五年生は終日測量に従事した。

放課後五年生有志の奉仕作業が行はれた。

雨上りの爲でもあつたらうが、見る見るうちに立坪一坪五合の土を引いて仕舞つた。

さすがは五年生だ。

午後六時より十一時迄建物の位置變更について凝議した。

列席者小林技手・板長・前田・森本・生田・赤木・西村・筏の諸氏。

九月 十一日 火曜日 晴

七十立坪の土を掘り起した上、之を運搬しなければならぬ一日に一坪や二坪では問題にならない。

今日から二個學級づつ居残る外、正科作業の時間にも手傳つて貰ふこととなつた。

正科作業……二年各組。課外作業……四年一組及び二組。

九月 十二日 水曜日 晴後曇

正科作業……五年各組。課外作業……三年一組及び二組。大分理立も出來たので、基準となるべき水平面を二個所に

作つた。

午後五時公園の太田氏・小林氏來校。工事に關する詳細な指導を受けた。

生垣の掘り上げ完了。

九月 十三日 木曜日 曇後雨

正科作業……四年各組及び五年二組・三組、但し四年四組は二時間行ふ。

課外作業……二年一組、二組。

午前の作業は容易であつたが、午後雨となつたので二年生は着手後十分間位で中止しなければならなくなつた。

九月 十四日 金曜日 曇夕方小雨

正科作業……一年各組。蒸暑い天氣なるに拘らず能率大いに上る。土方の言に依れば、三坪以上も運んだらしい。

晝食後人丸神社の神職を迎へ、地鎮祭を行ふ。全校職員生徒の多數の父兄も參列した。

九月 十五日 土曜日 曇

正科作業……三年各組。課外作業……四年三組及び四組。

九月 十六日 日曜日 曇

殘暑殊の外厳しい。日曜日であるが次の如き奉仕作業が行はれた。

午前八時—九時迄……舍生約四十名。

午前九時—十時迄……剣道部員。

午前十時—午後二時半……有志通學生。

午後三時より生徒控室にて参加者の茶話會を開く。

九月 十七日 月曜日 曇

正科作業……二年各組及び四年各組。

課外作業……第一小團。

九月 十八日 火曜日 小雨後曇

裏門及び前庭肥料溜を取り除く。

九月 十九日 水曜日 曇

正科作業……五年各組及び二年各組。

課外作業……一年三組・四組。

九月 二十日 木曜日 雨後曇

課外作業……五年三組・四組。

九月 廿一日 金曜日 暴風雨

物凄い颱風だ。午前七時四十分頃その頂點に達す。校地内のきばなあかしあは全滅、松樹の倒れかかつたもの三十數本、瓦の吹き飛ばされたもの幾百枚なるを知らず。

朝禮から午後二時迄被害の跡始末に没頭した。第六時限一回だけ授業することが出來た。今日は建築の入札日だと聞く。

九月 廿二日 土曜日 晴

正科作業……三年各組及び一年各組。

課外作業……四年一組・二組。

太陽は昨日の颱風の事は何も知らぬ様な顔をして照りつける。雲も風もない憎らしい程よいお天氣だ。

九月 廿三日 日曜日 晴

日曜日であるが午前八時より午後三時迄奉仕作業が行はれた。第二・第三・第四・第五・第六及び第十四小團より馳せ參じた有志(二三七名)は各小團毎に一時間づつ働いた。

掘取りが終つたので土方に暇を出した。

本日迄の土方延人員は六十九人半となる。

九月 廿四日 月曜日 晴

例年通り招魂祭が行はれた。

九月 廿五日 火曜日 晴

課外作業……三年三組。掘取りも運搬もすんだので敷地の高低をならす。

九月 廿六日 水曜日 雨後曇

九月 廿七日 木曜日 晴

課外作業……三年四組。主として南方傾斜面の凹凸を修正した。

九月 廿八日 金曜日 晴

課外作業……一年一組。石拾ひ。

九月 廿九日 土曜日 晴

課外作業……一年二組。石拾ひ。敷地作業は豫定通り本日を以て完了した。



筆を擱くに當り、一切を投げ捨てて終始された西村先生と此の炎天をものごもせず、日曜日迄働かれた諸先生並に校友諸氏の尊い誠意に對し深く、感謝する次第である。

### 三十年前内務省地方局長ヨリ

#### 山内校長ニ寄セラレタル書簡

該書簡ハ明治三十九年十二月十二日附發信ニテ當時内務省地方局長床次竹次郎氏同參事官法學博士井上友一氏同府縣課長有吉忠一氏同市町村課長中川望氏連名自署ニテ遺ハサレタルモノニ係ル、尙文中ニ見ユル別冊寫眞帖ハ歐米各國ノ社會教化資料ヲ蒐集シタルモノニシテ、該寫眞帖ハ該書簡ト共ニ留魂堂ニ保存スルコトニセリ。

(山内佐太郎記)

拜啓益々御清安奉賀候貴ト多年中等教育ノ任ニ膺リ諸生ニ訓ヘラルルヲ獨立自營ヲ以テ經トシ實踐躬行ヲ以テ導トシ之ヲ導クニ凡百ノ施設ヲ以テ詳々能マズ加之學校ト家庭及社會トノ連絡ヲ圖ラルノ切ナル躬ヲ村落ヲ巡回シテ戸説人論以テ風化ノ周布ニ勉メラルル等誠ニ敬服ノ外無之候今後益々其ノ精神ヲ發揮シ大成ヲ致サレ度別冊寫眞帖ニ部爲記念進呈仕候間御受納被下度候 頓首

十二月十二日

山内佐太郎殿

中川 望  
有吉 忠一  
井上 友一  
床次竹次郎

## ○記念圖書館竣工をよるこびて

### 記念圖書館竣工を慶びて

五ノ一 甲 斐 治 郎

自強の大旗を大空高く懸し、全國中等學校のリーダーとして、躍進に躍進を續けて來た吾等が明中の一角に、巍然として聳立つた山内記念圖書館こそ吾等明中の無上の誇であると共に、勵もすれば理論に流れ實際に反する現代教育界刷新の良き活模範であり、又活學体験教育の確固たる不動のシンボルである。

惟ふに我々が常に敬慕してやまざる山内校長先生は既に三十年前以來作業教育の必要を痛感され、あの熱烈燃ゆるが如き御氣魄と七年報國の固き大楠公精神を以て日本教育の爲に勿体ない程に全精力をそれに傾注されたのであつた。斯くしてその間、有難き先生の御薫陶を受けし眞の体験家たる我々の先輩諸兄は實に三千名を突破し、日本中至る所に活躍を續け、何れも校長先生をお助けして作業教育の爲に邁進しつゝあるのである。

昨年三月謝恩記念會が組織されるや忽ちにして先生の至誠に感激せる者が馳せ集り、此の無言の教育精神の粹を集めた大圖書館の竣工を見たのも偶然な事ではないのである。

「人間萬事風を知るは最大の知識にして感恩の精神は天地の眞理、宇宙の眞生命の發露即ち教育の生命である」との校長先生の教育の爲には水火をも辭せぬ教育精神とその教へ予先輩諸兄の純情とがびつ

たりと合致して、初めてこの清い明るい圖書館を自強ヶ丘に仰ぐ事が出来る様になつたのである。

而して圖書館教育の重大性は既に十數年以前より提唱され山内先生等によつて絶叫されたものであつて幾多有爲の士が圖書館によつて生まれ出たものであつた。

斯くの如く圖書館教育の必要と設置された圖書館が全國に澤山存在すると雖も斯くも感恩誠心の結晶たる圖書館は皆無といつても過言ではなからう。此の點に於て吾々は絶対に誇り得る自信するのである。

幸ひにも此の純情無垢なる圖書館を直接利用し得る幸福なる吾々は今一層の固き決心覺悟を要するのである。

吾々は此の圖書館によつて清く明るい自學自習の誠心を喚起し先輩偉人の功業を仰ぎながら、校長先生の御教育精神を深く、身に体し圖書館をして益々發展し、續々と有爲の士を世界に飛躍せしめるべく努力するのみである。

## 圖書館開館を喜びて

四年 西尾嘉男

木々の綠に水清く、十三州を一望に集めた勝景の地自強ヶ丘に、斯界の權威者山内先生を校長と戴き、作業教育の先驅者として自他共に許し、又師弟の純情相和して一家の如く、和やかに明るくそ、り立つ吾が明中でありませう。明中として登つて行く時、自強ヶ丘の綠の中に紺青の空高く翻翻と懸る自強旗のよもに巍然として聳ゆる三階の洋館

こそ、我等の誇であり寶である山内先生記念圖書館なのであります。神戸師範附屬小學校より、掛川中學、佐倉中學、宮津中學、關西中學、明石中學の先輩、それから僕達在校生に到る迄、山内先生四十年間の教へ子が、師の恩を報ぜんとする眞心と熱意で作上げた先生還暦記念の圖書館であります。之は誠に日本精神の發露といひつべきものであります。

先日、母校を異にし、環境を異にする、幾四十年、横日本全國に亘る先輩と一堂に會し開館式を挙げた時の感激は、僕の頭にもありありと残つてゐます。

今圖書館教育の叫ばれる今日、吾等の圖書館として開館せられたのは眞に嬉しいことでありませう。又紙と鉛を持つばかりが作業でない。この圖書館によつて學習の新天地を自ら開發することこそ、現代日本の青年にとつて眞に相應はしいことでありませう。

今や世界は國際的非常時に遭遇し、吾人青年の任務も亦重大であります。そして青年の最も重んずべきは意氣であります。吾等の圖書館開館室の名は雄飛堂といふ。大備安弁息軒も云つたではないか。

「今は我を忍ぶが時の時鳥」

いつか雲井の外に名のらん」  
僕等はこの圖書館を誇ると共に、後日の雄飛を期し、日々これ勉學に勵み、以て圖書館開館の精神にそはればならぬ。



## 吾等の記念圖書館の落成を喜びて

三ノ一 岩崎 剛

新緑の松はもえ、萬物は清々澄刺、天地活然として開き出でたる、陽春四月二十八日。朝來の花曇は格別に嚴肅な気分を、われらが胸にひし／＼と押しつけてくる。此の好季節に吾等希望の圖書館は自強ヶ丘の一角に傑然として出でた。

仰ぎみる吾らの感激昂奮は到底筆舌の限りではない。前年建設の議おこり、一時風水害に罹され、工事停頓の厄にあつたが、僅に牛續にしてかくも飄爽なる姿を、われらが眼に映せしめたる事の偉大さよ。之もとより幾多萬志家御後援の賜なりと雖も山内先生御高徳の絶大なるを思ひ、吾等は感極まつて、言ふ處をしらぬ。殊にこの間にありて蘇をさり、又スコップを手にし、汗をながしたる吾らの感銘は到底之を忘るゝことは出来まい。草を抜き、芝を附し松をうみ土を運ぶ等々、自分らのみにあたへられたる、謝恩作業を、誇らしき圖書館を夢みつゝ、なし得たることを、吾等はさこしへに膾炙に、深く刻みつけられるであらう。日々完成に近づく圖書館を眺めつて、無上の歡喜と希望にもえたのも、決して我々生徒のみではなかつたらう。

人に生まれて、恩をしり、恩に感じ、恩にむくいること程崇高且美しきことがあらうか、この純情のあらはれとして、全生徒が謝恩の出勤さや、小遣錢の節約體金をした事に對し、

「無上の感激と満足を感じる。」

五〇

先生の仰せられた事は、萬分の一の報恩も出来なかつた吾々には胸に赤面の至りであるが、この小さき謝恩を、満足に入られたる事を我らは此の上なく喜びしく思ふ事は言を俟たない。

圖書館の重要性は勿論萬人周知の事實である。創造的活知識を求めて止まぬ自分達に、自學の途を興へ、滾々としてつくるなき泉として吾らの活業となり、有用人才をばぐむのも皆この圖書館の恩恵である。

されば吾らは之を表面的裝飾さか、單なる溜池といたくない。

所謂名實共に光輝ある報恩圖書館として、他日天下四海に重耀する人材の源として、榮えんことを期待してやまぬものである。

(六、二三記)

## 山内記念圖書館に就て偶感

三ノ一 孝橋 謙一

昭和十年五月新緑の學園自強ヶ丘の一角に學校教育に於ても、社會教育に於ても、重要な地位を占める美しい圖書館——眞に他の追隨を許さぬ光輝ある異彩を放つ圖書館——が設立された。

我等が校長山内先生は、四十餘年の長い間、鐵をも溶かす熱誠を以て、數多の子弟を訓育され、有用なる人材の養成に饑食を忘れて勤められ、又一面には廣く國家社會の爲に、活躍されつゝある多數知名の士と交遊された。それ等の人達が先生の遺曆に當り、受けた御恩に報いる感謝の誠心を以て作り上げられたのが、此の謝恩記念圖書館であ

## 山内先生謝恩圖書館に就いて

二ノ一 高橋 剛

清く明るい自強ヶ丘の傍に、澄刺とした青空に際せば白雲の

建物こそは、山内先生の四十年間の教へ子有志三千餘名の誠心の結晶たる山内記念圖書館であります。先生の誠心對して誠心を以て應へた教へ子、「恩に感ずるを人とし、恩を感じざるを禽獸とす。この先生あつてこの生徒あり、師弟の間柄は誠に麗しい極つであります。

一步この圖書館に入つたものは、誰しも謝恩の深い教訓を感じないものはありません。この教訓の満てる室内にひたる時、必ず自學自習の堅い信念と熱が自ら湧き出るのをおぼえます。このやうに立派な圖書館の出来た以上は、山内先生に對しても、三千有餘の謝恩會員の人々に對しても、將又父母や天地の神々に對しても、安閑として日を送り、安閑として一生を費すことは決して出来ません。

朝登校の時なども、くつきりとしたこの姿を仰ぐとき、今日も一心に勉強しようと思ひ、自づと足が索きつけられます。どうか全校生徒がこれの活用によつて、益々明中魂を堅固にし、活きた學問を修められたいと思ひます。

何れにしてもこの謝恩記念圖書館が出来上つたことは、私達のこの上もない悦であります。

る。即ち先生が社會の爲に盡された行跡に對する謝禮の精神と、先生の教を受けた子弟の、謝恩精神の結晶である。換言すれば先生の人格の光である。僕が「他の追隨をゆるさぬ光輝ある異彩を放てる。」と特筆した所以は實に此のうらはしい心情に基づいて造り上げられた圖書館を意味するのである。

緑の山を背負ひ、前には白帆の鳥影を往来する明石海峡の絶景を眼下に眺め、春夏秋冬各季を通じ天然風光の加護を受けた閑靜な生々とした氣分に満ち／＼してゐる圖書室に於て、種々の書籍をひもとき研學することを得る我々は、又此の校長先生を始め熱誠なる諸先生の温容に接し、親しく教導を受くることを得る幸福を感謝しなければならぬ。

圖書館三階の留魂堂には、吉田松陰先生を始め、東郷元帥・乃木大將等古今の英雄烈士の筆蹟が保存してある。此の室に一步をふみ入れば、名士の面影を忍び、自ら森嚴襟を正すの感に打たれる。

僕等は今後益々この圖書館を活用して、自習勉學に勤め、死しても死なない楠公精神を以て、忠良なる國民となり、他日社會に活動し得る要素を築かれねばならぬ。之がせめて山内先生、諸先生に對し謝恩の萬分の一であり、又我明中學園に對する謝禮であること、今更深く感ずる次第である。

仰ぎ見よ、我が自強ヶ丘に聳え立つ偉大な、美しい圖書館の英姿を！我が明中と共に、永久に光輝を放てよ。



# ○通信

前文部次官田所美治氏より

柔雲拜誦仕候益々御清通奉慶賀候。扱其後御疎音に打過御寛恕被下度候。歲月如流不拜肩事久しく、老衰昨年還暦の賀壽を迎へられも益々御健勝至誠勤勞一貫の方針下に郷黨の青年御教育今日に至られ候事爲國家感謝不能措候。祝賀謝恩之記念として立派なる圖書館建設され其記念誌御懇途就而經過之一班承知仕候。回顧先年舊交之歴史を思ひ積年の御熱誠感激一層に覺申候。時局益々多事國家の前途一に最も堅固なる思想、青年之力に待つ秋、此の圖書館を自學自修の道場として茲に復々特色の活動を期せられ度希望此事に御座候。不取敢御禮勞々如斯御座候。多々不盡

東京 男爵赤松範一氏より

芳章拜誦仕候先般愚弟渡歐出發の御計らず船中にて拜委其節御尊有之候明石中學校内に工事中の記念圖書館御竣工近日開館式御舉行の由多年子弟訓育に御盡瘁の御功績に對する好記念物と存候。遠かに慶祝仕候。右に付館内記念陳列室に御蒐集の爲亡父の遺墨御懇望被下誠に光榮の儀に奉存候。然るに亡父は御熟知の如く一介の軍人にして文墨に迂く殆んど何物をも遺さず従つて貴志に副ひ難き段不感御承願上候。小生友人幸田成友氏恒日和蘭雜誌と云ふ一書を梓行致され候。其内の一編「赤松大三郎」と題し候は亡父が和蘭留學中の動靜を記したるものに有之二三葉の寫眞をも掲げ居候。御閑暇の御覽被下度別便にて一部拜呈仕候間御笑留の程願上候。敬具

新潟縣總務部長安原舜一氏より

肅啓新緑の折柄愈々御多祥の段萬慶の至に存候陳者雅台今回還暦の壽を迎へられ誠に慶祝の至に不堪謹而御祝申上候。猶此の祝福の爲記念圖書館建設記念式も舉行せられ申候趣御高徳の薫化誠に慶賀の至に存候。勇渾なる徳化水く教育の爲御盡瘁の程祈上申候。先は祝意を表し度候。

前京都帝大法學部長宮本英雄氏より

謹啓 新緑燃ゆるが如き初夏の候となり、悠々此の大自然の激刺たる生氣の中に吸ひ込まるゝが如くに感ぜられます。過日は久々に先生並びに御奥様の愈々御健勝なる御様子拜して、誠に喜ばしく存じました。先生、多年の御主張たる圖書館も出来上り愈々先生の高遠なる御理想が實現せられる事は何より慶賀すべき事と存じます。私的に申しますと私は過日の盛典に參列をさせて頂き、先生の御満足の御心を推察して何とも云ひ様のない喜びを感じました。當日は杉山君が先輩の故を以て掛中卒業生總代として御祝辭を申述べた事になつて居りましたので、私は申し述べ度い數々の事を持ちながらも羨望へる事に致しました。然しながら私共の感謝と又喜ばしきは實を申せば到底筆舌に盡し得ないものでありまして、當日あれ丈の方々色が色々述べられたにも不拘、先生並びに御奥様の御徳と御功績の半分を言ひ表はして居ない私に對し考へて居ました。一例を申せば、掛中寄宿舎に於ける先生が如何に優しき父として吾々を愛して下さつたか、又御奥様が女中さんを連れて毎週一度は必ず寄宿舎に御出で下さつて私

三田中學校長今西嘉藏氏より

謹啓昨日はお立ちより申候處圖らずも多大の御芳情に預り誠に敬謝の至りに存上候。四十年に亘る貴下の熱誠なる御盡瘁御功績の殿堂を拜觀いたし欣快至極に存上候。それが末永く明中生並に其他に與ふる教育力を思ふだけ貴下の御徳化力は永遠に及ぶことを思へば敬謝の至りに存候。茲に不取敢御禮勞敬意を表し候。敬具

宇治山田中學校長高畑淺次郎氏より

拜啓御還暦記念誌御贈り被下拜見尊き生きたる教育史先生の崇高なる人間性躍如たり。敬意を表し申上候。敬具

海部中學有賀敦義氏より

拜啓新緑陽光に榮えて聖代日本の現勢を語る候先生益々御多祥本日は還暦記念誌一部御贈り被下早速拜誦深く感激仕候。眞に教育報國を以て一生の本務とせらるゝ先生は昏迷の途上にならば黎明を覺らざるも多き現下教育界に於けるの明星に有之、是非共永く新界に輝きて後進我等を御指導あらん事を冀ふものに候。小生再度明中を訪ひ先生の風貌に接し、溫容の裡雄大豪宕の大道を拜し、歸來日夕欣慕にたえざるもの有之候。即ち遅々として振はざる天下無名の中學校經營の任に當り熟ら愚蒙なるに嗟嘆するものあり、加ふるに老齡八十一歳四月以來病褥に臥す父あり、思親の情にたぐす候。謹みて先生の壽を

龍野町脇坂子爵より

過日は貴會より山内先生謝恩會記念誌御贈與に預り難有委細拜誦仕候龍野伊水校を發端としての先生の御活動及び各地に於ける御功績を充分承知仕り満足に存じ候。尙一層末長く同氏を校長として明石中學の御光榮を祈り益々御校の校風を御發揚あらん事を希上候。敬具

東京高師教授佐々木秀一氏より

拜啓此度山内先生還暦謝恩記念誌をいたゞき誠に感佩至極に存じます。多年教育に従事すること既に衷心感謝すべきところでが大兄のごとくその感化の及ぶこと深く大なるは當代稀に見るごころと存じ景仰措く能はざる次第と存じます。こゝに謹んで敬意を表します



祝し御高情を拜謝いたし候。頓首

河井昇三郎氏より

拜啓 重々芳信著しく拜誦仕候。過日は小生としては久し振りに中學時代に還り尊容に接するの心地にて欣懐至極に奉存候。時下一層の御清安御活躍奉祈上候。敬具

三重縣立富田中學校長小林徳太郎氏より

拜啓先日は参上先生はじめ御一家皆様の御健かなるを拜し其の上御備式に参列して御祝詞を呈する事を得此の上なき光榮と歡びに浴し誠に忝く存候。御祝詞もつと申上げ度き事も多々有之候ひしがども御貴重なる時間をあまりにいたゞくのも心苦しく爲に充分に意を盡す能はず失禮いたし候。然る處却つて先生よりの御鄭重なる御懇書を戴き誠に恐縮の至に存候。なほ小生は参上して先生の學校の愈々完備せるを拜し又生徒諸君の闊園分列を見る機會をも得殊に式典に列して先生の御功績を仰ぎ、又師弟報恩の美しきを感じめられ、誠にうれしく存候。厚く御禮申上候。二十八日は歸途湊川神社に参拜し、大阪にて山田今林其の他の諸君と夕食を共にして午後十一時過無事歸宅いたし候間乍御安心下され度又當日御令園様より結構なる御品いたゞき誠に恐縮の至に存じ候。これ又厚く御禮申上候。何れ又圖書館等拜觀のため参上いたゞ度存居候。學校の前田國府田森本外諸氏へも御序の時よろしく御傳へ願上候。敬具

金澤市三越支店長大槻房吉氏より

諸啓益々御清祥の段奉慶賀候素は誠に申譯も無き御無沙汰罷在候過日は懇々原君を差向けられ消息御尋ね下され誠に忝く厚く御禮申上候。尙其節先生の御近狀拜承仕り今更ながら御親しく奉存候。扱御記念の御圖書館も愈々竣工近く御盛大に開館式を御舉行遊ばされ候由塞に目出度存上候就ては古宇田様よりも小生参列方御案内を受け誠に良き機會に有之久々にて拜顔の上親しく御祝辭申上候も何分仕事都合にて叶ひ不申残念に存候。依つて些か御祝の印迄に乍御粗末陶製花瓶一個御備用品として只今客車便を以て御届け申上候に付何分可然御利用下され度此段不取敢御祝辭勞々右御案内申上候。御令園様によりしく御鳳聲の程御願申上候。早々頓首

森慎治氏より

拜啓時下益々御多祥且終始一貫教育報恩御盡瘁被遊慶賀不堪候。今回先生の御徳を永久に記念すべき圖書館の落成せし報に接し感慨無量衷心より御祝詞を申し一層先生の御自愛を祈る次第に御座候。現代の社會が餘りに習育を偏重し徳育を疎する爲に生ずるものは危険思想であり人心の動搖であり如斯は小生等中學時代には夢想だにせざる所に有之候。此現實の社會に於て願れば先生が關中の朝禮に於て日常訓示せられし言は今始めて味ふこと切なるものに御座候。小生實社會に入りて現に十有餘年三人の子の父として其教育に重大なる責任を背負ひ居り此が精神教育に付いては今後は一層の努力を要すべきこと案じ居り候。就いては甚勝手なる御願ひにて恐れ入り候へども小生のため

廣島文理大教授竹中利一氏より

拜啓新緑の候愈々御清祥奉大賀候。さて明日は意義深き記念圖書館落成贈呈の御盛典を挙げさせられ候趣誠に慶賀の至りに不堪ひさり先生のためのみならず廣く教育界の美譽として長く後世に傳はるべく遙かに滿腔の祝意と敬意とを表し申候。就いては御懇書に接し一は以て光榮と存じ一は以て義務とも感じて早速拜禮親しく御祝辭申上げ度存候處學年始めの事とて公私多端諸種の會合に責任ある約束を致居候間甚だ遺憾ながら他行を許されず僅かに以寸書慶賀の微意を申上候次第不意御諒承被下度御詫勞々御願申上候。多々敬具 尙は今後益々先生の御勝捷を御祈申上候。多々敬具

鳥取第一中學校長三木順治氏より

拜啓 新緑初夏の候愈々御清安奉賀候現今回は御還禮謝恩記念館落成贈呈開館之式典舉行被遊候趣、是全く先生四十餘年の教育御報國之至誠の賜と拜察仕り不肖一弟子祝慶措く能はざる次第に有之謹んで祝意を表し奉り候。是非拜禮親しく祝詞申上たゞきに御座候處不得其意且つ逕仕候段恐縮至極に存候。實は家人に病人有之去る二十一日出發京都に滞在在る前夜御宅仕り恰も留守申式典御通知いたゞき歸宅既に御終了後と相成全く缺禮申上候次第に有之不意御諒承給はり度願上候。 希くば益々御加餐幾久敷爲教育御盡瘁たまはり度祈念此事に存入候先は右略筆延引御祝詞申上度高臺御一統様の御清福祈上候。頓首

に永久に先生の御高徳を慕ふべき子供のためには人生の指針となるべき額を掲げ常に一家の修養にいたしたく候間何卒一書御懇賜賜りたくお願ひ申し候。 御多望中恐縮ながら加聞き下されなば本懐に存じ候。先づは御祝詞と御願迄如斯に御座候。拜具

揖保郡網干高等小學校長三田虎次氏より

諸啓 時下愈々御清安の條賀上候 者陳過日は山内先生記念誌御惠授謝上候猶去月二十八日同先生謝恩記念圖書館開館式御舉行につき御案内を頂き申候處折悪しく前後他行不在の爲風端失禮仕候段不意御覽恕被下度候。貴トを始め有志各位の一方ならざる御盡力を感謝致すと共に日頃敬仰せる山内先生の愈々御壯健にて斯界の木鐸として御活躍被遊候様念上候。右御禮申上候。 敬具

山口篤藏氏より

拜呈 時下新緑濃やかならんとする好季に候處先生益々御清祥過日は數多御教へ子方より他に多々類例なき御祝をば御嘉納相成誠に以て慶賀此事に御座候。今や子弟の情誼地を拂ふの秋此の美譽ある全く先生御人格の反映を證し得て餘り有之候。尙此上愈々益々育英之爲御盡瘁の程希上候。 御舉式當日席末に列するの光榮に浴し度く相樂しみ居候處生憎にも數日前より前痛になやまされ静養中乍遺憾缺禮と残念此事に御座候ひ



き。先は御祝詞並びに御詫申上度終にのぞみ先生愈々御健祥育英に御  
盡捧の程相祈申候。拜具

桑田悦藏氏より

拜啓 過日も推参御邪冤仕り且粗品進呈却て憚入申候。其節拜見致  
候貴圖書館の御設備敬服罷在候處新聞紙上にて愈々御開館相成られ候  
趣敬承真に慶賀の至りに存上げ候。何よりも結構の御還厝祝福御記念  
と存入候。此中天長佳節祭典後御神酒を戴きながら自然の發露の兩三  
首を左に相認め幾重にも祝賀申上げ候。敬具

敬祝 畏友山内佐太郎氏還厝祝福記念圖書館竣工

滄海 桑田 悦

華甲祝來大校園 積年師徳自清温 圖書萬卷溢高館 好記念長表謝恩

又 予淡路洲本産絹句故及

明中名校經營全 山内圖書館屹然 吾竹館頭懐感荐 一衣帶水望郷天

年月を教の道に盡します

いさをも仰ぐこれの圖書館

悦 藏

海山のたへなる景色窓の外

ふみ讀みながら氣をも養ふ

又 圖書萬卷窓に絶景の山と海

猶七十の手習をして少しもな筆蹟出来候節は聯落が色紙などに改  
書してお目にかけ可申上候

岡山市弓之町 中山寛氏より

肅啓初夏新緑之候益々御健勝之處慶賀此事に奉存候陳者今回多年教  
育界に御盡捧功績顯著として還厝謝恩記念事業相起りし事は當然の結  
果にて寧ろ時期の遅れたりとも謂ふ可きものか、兎も角貴兄には最大  
の御名譽の至り遙に御歡申上候。就ては記念誌一部御郵達被成下願生  
迄御名譽の模倣拜承致し誠に仕合に奉存候はば將來も益々御自愛の上  
國家社會の爲に一層の御奮闘奉祈上候先は不取敢御禮迄申上度如此御  
座候。早々敬具

羽子岡勇君より

本日紙上にて山内先生謝恩記念圖書館竣工の由承りました先生の御  
滿願に浴せし者にとつては此の上もない喜びです明中教育の精神が永  
へに此の殿堂に刻み付けられる事と信じます。最後に實現の爲御盡力  
下さつた御方々に深く感謝致します。

成田中學校教諭伊藤優氏より

拜啓久しく御無音に打過ぎ失禮申上げて居ました。青葉かほる折柄  
先生はじめ御家族皆様には定めて御健勝の御事と拜察奉ります。今般  
「山内先生記念圖書館」が愈々竣工になりました由、謹んで御喜び申  
上げます。御送り下さいました「山内先生還厝謝恩記念誌」隔々までも  
有難く拜讀致しました。この圖書館の竣工が明石地方を中心としての  
文化、教育の開展の上に大きな貢獻をたらすであらうことは申す迄  
もなく、ひいては廣く、日本文化、社會教育に益するところ甚大であ

ることを思ひまして、先生の還厝を祝し、先生多年の御功勞に報い奉  
るに、この圖書館建設の聖業を以てすることに氣づかれた發起人諸賢  
の適切なる御計畫と高き御見識とに對し、深甚の敬意を表するもので  
ありますと同時に、この事業がかく順調に進捗しましたことは、偏へ  
に、先生の御徳の高さによるの外なきことを思ひまして感慨深うござ  
います。一人でもこの圖書館を利用するものゝ多いことを願つてやみ  
ません。

降つて、私其後からだの具合まづ大福なく、さ、やかながら、力一  
杯本分をつくすことにつとめてみますから御放念願ひ上げます。また  
／＼からだは無理は出来ません。時々検尿も致して居ります。注意を  
愈りませぬ。授業の方は大した肉体的の苦痛もなく、愉快に研究的に  
やり得てゐます。一日の中で何が楽しいといつても教壇上に立つて、  
何事も忘れて生徒と魂を共にして、事をなすさき程楽しいことはあり  
ません。今は一、二年の総合數學と、三年、五年の受験科の數學とを  
受持つてゐます。

甲斐先生もお進者です。  
先づは亂筆乍ら、圖書館竣工のお祝ひ申上げたたく、かいて近況御一  
報迄。

先生に於かれましては益々御健かに教育報國專一に願ひ上げ奉りま  
す。敬具

前畧

昨今の時勢に徴し佐倉中學校時代先生の御教育方針を回顧いたし先

生の先見の明と確乎不拔の御信念に想到し今更の如く先生敬慕の念  
に不堪候。高師時代に於ける西晋一郎先生と共に小生とては思想  
的啓示を受けたる二大恩人としての先生を常任仰ぎまつり度くその  
よすがとして一枚御揮毫を賜り度く候が御納願へまじく候や、惘  
願の至に候。小生新聞界に立つとも高師に學びまた中學以來養はれ  
たる性格の傾向さて教育の専念頭を去る能はざる次第新聞を通じて  
聊かなりとも此點に寄與いたす心算にて奮闘いたし居候間何卒御諒  
承願上候。

時候不順の折柄御自愛專一を奉祈候。

御令室様へもよろしく御鳳聲願上候。敬具

六月二十五日

讀賣新聞社整理部次長 渡 貫 貞 治

山内佐太郎先生

御侍史

前略

先生益々御健勝彌々教育報國に御盡捧の御事祝著此事に奉存候。今  
日日本精神の勃興に事新しく朝野を挙げて鼓吹せらるゝか見ると時つ  
く／＼現代の日本人は如何に日本精神が清磨しあるかを思はしむる  
もの有之痛憤を感ぜざるを得ざると共に先生が今日の時局を數十年  
の昔に既に知悉せられてか終始一貫皇道の宣布の日本精神の發揚に  
拂はれたる御努力を考へる時只々感激の外無之親しく御教育を尋う  
したる在等現代を顧みて一際感激を新に致したる次第に候。



扱御申越の天壤無窮の碑の寫眞早速原版を捜し候へ共無之き爲め木川寫眞館に撮影を依頼し本日漸く出来致し候に付別便を以て御送附仕り候間御査収下され度候尙寫眞便内の當時の記念寫眞及別紙行啓記念碑及其の除幕式の一文(同窓會報)御持ちの事とは存じ候も先日中學校の松沼先生より特に貰ひ受け候儘同封いたし候何卒御諒承賜はり度候。尙何なりと必要の品有之候は、御申付け下され度候。佐倉中學校も其後逐次發版を遂げ講堂も擴張せられ去月竣工を遂げ今秋三十五周年記念祝典を舉行する豫定に候。時節柄折角御自愛益々御隆祥の程祈上候先は御送付の御通知申上度如斯に御座候。 敬具

六月廿四日

豫備陸軍歩兵大尉 白井清之助

山内先生 侍史

拜啓 青葉風に薫る初夏の候となりました。校長先生には其後御變り御座居ませんが、懐かしい我等が母校では先般記念圖書館の落成を見、更に光輝ある創立記念日を迎へました事誠に喜ばしい次第です。謹んで御祝申し上げます。御蔭で私共一同元氣に勉強致して居ります故。何卒御安心下さい。本年は明中から大阪藥專へ四名入學し、而も揃つて第七回卒業生ですから、實に愉快であります。此の入學を記念する爲、一同記念撮影を行いました。その寫眞が漸く出来て参りましたので早速御送り致します。

此の寫眞は勿論四名の入學記念であります。更に今後益々協力致しまして母校明中のため、猶一層奮勵致すべき事を意味して居ります。私共四名は此の機曾に反せず一層の努力を致し度いと思ひます。次第に暑さの加はる折柄御身御大切に、老筆ながら校長先生の御健康と母校明石中學校の今後の發展を心から御祈り申し上げます。 敬具

五月二十六日

明中出車大阪藥學專門學校本年度入學生

清水 豐  
西海 圭三  
吉岡 靜治  
波瀨 辰男

山内校長先生

拜啓校長先生御鄭重なる御手紙及書籍有難く拜讀いたしました。滿洲に居ましてなつかしい先生の御手跡を拜見することは實に嬉しく、その時は中學時代の色々の思ひ出が浮かんで来て中學生になつた様な氣持になりました。内地はもはや梅雨の頃でありませうし、美しい明中の校庭の緑が暮はしく覺えます。當地も今は一面の緑地帯でありまして新京も街路は氣持よい風景であります。

昨日も馬に騎りまして友と遠乗りをしましたが大分上手になりましたので落馬する様なこともございませんでした。三四日前までは新京

防空演習がありまして我々學院生も参加いたし微力をつくした譯でありました。

又七月の八日から三週間北滿のハルビン、チムハル、ハイラル、滿洲里方面に旅行に参るこゝになつて居りますので今からその研究項目の準備にかゝつております。これから暑くなりませうから校長先生には

一層の御健勝をお祈りいたします。それから明中圖書館の御發展を祈ります。先は御禮勞々御通信申上ります。 鞠躬

六月十七日

澤田雅利 拜

今回竣工、贈呈並ニ開館ニ係ル「山内記念圖書館」ニ關シ、山内佐太郎先生ハ「山内先生謝恩記念會」ヨリ其受領方ヲ、尙之ヲ本縣ニ寄附採納方ヲ申請中ノ處、左記ノ通り其々指令アリタルニ付、茲ニ謹ミテ「山内先生謝恩會員」諸氏ニ報告致候 敬具

昭和十年六月二十九日

追テ右寄附採納當時締切所要金額貳萬四千貳百八拾貳圓九錢也

兵庫縣指令學第一四四號三

昭和十年五月一日附願出山内先生謝恩記念會ヨリ贈與スル山内記念圖書館受納ノ件許可ス

昭和十年五月二十七日

兵庫縣指令學第一四四號四

山内佐太郎

明石市太寺一丁目三三七二ノ一

山内佐太郎

兵庫縣知事 湯澤三千男

五九

### 特 別 謹 告

昭和十年五月一日附願明石中學校用圖書館トシテ敷地並ニ建物寄附ノ件採納ス

昭和十年六月二十九日

湯澤三千男



### ○三十年前山内校長深き感銘に係る 皇太子殿下行啓と其當時中學生の感激

山内 佐太郎

余生來六十二年、感激の甚だ深きもの、中去年明治四十年五月十三日京都府立第四(現宮津)中學校奉職當時、かけまくも畏き御事ながら、皇儲皇太子殿下山陰道行啓の途次、玉駕を任けて親しく我が中學校をみそなはせ給ふ。洵に感激に堪へず。約三十年後の今日、其の當時の中學生は今日皆國家社會の中堅として活躍しつつあり、今回余が還暦記念事業に對して何れも其の誠意を表し來れり。今其の當時を追憶して轉々感慨無量！せめて可愛い生徒の感激文の幾通かを再録して感激を新にしたいものである。

### 東宮殿下行啓に就きて

第五年級乙組 今林彦太郎

(現大林組設計部長)

山陰の地勢たるや、中國山脈によりて他地方と境せられ、自然別天地をなし、殊に莫日本として其濶濶少く、交通の便未だ幼稚にして、北海の風波荒きと、氣候の不順なるもの理由によりて、今日に至るも尙風車の臨御を得ず。然るに本年五月に至りて、東宮殿下には山陰地方行啓の旨を決し給ひ、約一ヶ月に亘りて我山陰の各地を御遊覽あら

せられんとす。士民多年の宿望は此に於て始めて達せられ、千歳一遇の慶事として、一同歡喜措く能はず。熱誠に奉迎の準備を盡くし、鶴首東方をのぞみて、臨御の日の近からんことを希へり。五月十日、殿下には東都御出發行啓の途につき給へり。翌十一日は舞鶴に、十三日には我宮津にならせられ、次いで山陰各地を御遊覽あらせらるゝと承る。山は緑を増し、水は艶を改めて、君が代の萬歳を祝し、民は遠きは山を越り、海を渡りて朝集し、御遊の影を拜せんぞ哈んぞ狂氣の如く迎へ奉れり。其の高徳を慕ふの切なるは、彼等の舉動に於て明かなり。山陰の地勢、風俗、民情等は、此度の行啓によりて廣く世に紹介せらるべく、又地方の發展も、之によりて一躍すべきことは疑ふべからず。嗚呼、行啓の餘榮は永久に滅せざるべし。

### 海上奉迎の記

第五年級甲組 小松孝行

(現農林省技師)

さしも倦く降り續きし雨も今日は其の脚を杉山のあなたに止めて近來の好天氣、成相の頂上僅かに霞たなびき、天橋の朝嵐風々として衣襟をなで、人をして洒落の氣を起さしむ。これもこれ貴き日嗣の御子の御威高く、與謝の陰雲をはらひしか、はた蕪の露にうるはひたる民草のやさしき祈の天に通じたるか。二千五百有餘歳一遇の有難き行啓を奉迎せん爲、吾等は皆破れたる服の塵打ち落して先づ登校す。

扱も上級生百數十の健兒は海上より迎へ奉らんが爲、ゴート三隻漁船十餘隻を雇ひて分乘し、午前八時宮津島崎海岸を出發す。毎船萬國旗を以て滿飾を施し盛裝を極む。

與謝の海水靜かにして四方の緑を映し、我が舟は列を止し影を碎きて進む。既にして天橋沖に到達各艇横陣を作り、姿勢を正し心意を誠にして、御召艦の到着を待ちぬ。天橋その他の沿道には、奉迎の人もて人垣を作られ、空も海も、山も松も緑いよいよ深く、嚴肅の氣宇宙に滿つ。微風起らず、波ますます靜かなり。

熱誠なる奉迎員、無数の視線は黒崎の尖端に集りぬ。いくたびか小汽船の煙に欺かれしが十時十分頃二艘の黒煙、暫くにして又二條あらはれ、我が港に向ひて近づく。此を正しく御召艦なり。

忽ち起る煙火の響、萬歳の聲、今や未來の大元帥は始めて此の港に入らせ給へるなり。山陰の僻地にも、かくも好景あるかと思はばす

らむ。

御召艦追風 供奉艦白雲其の他二隻は單縱陣を作り、威風堂々、近く來りて天橋沖に投錨す。殿下は白雲號より下きたる小汽船に打ち乗らせ給ひ、策めて設けたる棧橋に御上陸、玉歩靜かに還らせらる。時しも我が指令艇より起る君が代の喇叭、艇員一同舉手注目最敬禮を行ふ。殿下には數十の乗車をつらねて、あまたの群集、多くの松樹を縫はせられて笠松に其の絶景を留め給ふ。吾等日出度海上の奉迎を了りて歸校す。時に北風漸く起り、軒なる旭日旗飄々たり。

### 奉送

第五年級乙組 松本憲夫

(現大阪弘濟病院長醫學博士)

我等第四中學校の職員生徒は、空前絶後の大光榮を荷うて、今や東宮殿下の御還啓を奉送すべく、小學校裏手の海岸に整列しぬ。左には郡内各小學校の男子生徒、右には同じく女子生徒、手に手に國旗を携へ御座に列びたり。海に沿ひたる岸邊は、數千の民草を以て埋められ誠に立錫の餘地にならぬ。

麗かなり今日の日は、残暉山の端にかゝり、滿山の綠樹は更々緑を加へ、廣面の澄は泛々金波を漾はす。四隻の驅逐艦は嚴として位し灣内數十艘の船舶は總べて滿飾をぞなしたりける。やがて殿下には水産講習所の棧橋より、小蒸汽船に召されぬ。此の



時嘯嗚たる喇叭の音が代の奏樂起ると等しく、四方に起る萬歳の聲は煙火の響と相和して轟しく、天地もために震動せんばかりなりき。殿下には御機嫌風はしく、御召艦追風に召さるゝや、朝露は先驅となりて先づ發し、夕風、朝潮の二艦そが殿をなし、軍艦陣をなし、舞鶴として數條の黒煙の名残と諸共に、獅子崎の一角にかくれりぬ。奉送の人々が至誠、名残を惜しむの情は再び三たびかすかに萬歳の聲となりて轟きぬ。

嗚呼、さち多き五月十三日も、今や暮色靄然たる内に逝き去りぬ。

### 皇太子殿下の行啓

第五年級乙組 大西道太郎

(現大阪控訴院判事部長)

晴雨定めなき今日此の頃の丹後の空も、皇太子殿下の我校に成らせられたる日は、天氣晴朗一天拭ふが如く、與謝の浦曲瀟瀟かにして鏡の如く、天の橋立の青松は欣々として玉歩を奉迎するもの、如し。此日皇太子殿下には天の橋立御遊覽の後、我京都府立第四中學校に臨ませらる。實に明治四十年五月十三日なりき。我等慎みて校門前に奉迎す。講堂樓上に於て、暫く御休憩の後我等の日課を見給ふ。我等玉容に咫尺するを得たるさへ有難きに、獎學金と御眞影との御下賜あり。尙記念として小松樹の御手植あり。我等は實に感泣に堪へざるなり、謹みて惟みるに、その御眞影の御下賜たるや、是を見ること猶我を見ることが如くせよとの御思召に出でたるべく、又御手植の松は、如何

にその高潔に、よく發達して棟梁の材となり得るかを朝夕の戒めとなさしめらる、御思召にして、特に一小樹、而かも男々しき黒松の御手植ありしものなるべし。誠に御思召のあるところを拜し奉るに餘りありと云ふべし。加ふるに當日は、東郷大將の如き英將を初めとし、吾等の欽仰すべき偉人に接するを得たりしは、これ又殿下行啓の賜なり嗚呼、此千載一遇の行啓、我等に取りては天日を拜して再生を得たる



明治十四年五月三十日  
皇太子殿下御手植松行啓紀念碑

が如き感ありしなり。我等は終生、今回の行啓の御主旨を忘るることなくよく其の分を盡くし、忠真の民となり、御深恩の萬分の一に報せんことを期すべきなり。

### 東宮海上奉迎の記

第四年級甲組 中村定次郎

(現陸軍二等主計正)

北風はげしき與謝の浦曲、荒波高き日本海も天津日嗣の威にやなびき伏しけん。連日の宿雨は跡をたちて一點の雲も今日の空に見えず。油の如き海は碧瑠璃の光をきらめかし折しも霞は遠き山の端になびき、霧は近き海の上を立ちこめぬ。

こかくする中に、旭日は昇るに任せ、金波浪波を射て、海水は流るゝが如し。遠き田家近き高樓すらも泰平の和氣をこめて、黒時のあるたに二ひら三ひら鳥の飛ぶも世のものさ思ひよらず。

島崎海岸、指揮官の號令の下に三隻の短艇はオールの音勇ましく、十一隻の和船は折からそよ吹く曉風に橋頭の各國旗をひらめかし、勇壯と至誠、奉迎の意は海にまで及びぬ。

見よや學校長の奉迎注意を耳に残して、平らかなる海上を走るが如く、漕ぎ出でし舟の櫂聲は、軸轆にむせぶ白波の音と共に、奉迎の樂を奏するに似たり。これ我校第四、五年の健兒百四十餘名のもの、殿下奉迎の第一として、海上奉迎のため千貫村附近の橋上海岸に集まらんとするものなり。

波を蹴りて現はれし一隻の水雷艇は、鮮かなる軍艦旗を擁して豫定の棧橋に碇を投じぬ。當時棧橋附近につぎへる水雷汽艇御用船の勇ましく嚴かなる感を與へぬ。一同豫定の奉迎線に入るや、隊を正して待つ中に、一斷の黒煙は黒時にさちよふを見る間に、海上の彼方、四隻の

驅逐艦はこれその名も清き追風、夕風、疾風、白雲列序正しく雲のこふ中に徐々と進みぬ。神々しさは海山に及びたらん。棧橋附近の水雷艇は、號笛のひびき、機關音と共に動き出し、沖なる小舟は煙火をあけてその誠を捧げ、橋立公園なる群集は萬歳の三呼に真心を奉じぬ。諸艦艇の甲板に起る嘯嗚たる喇叭の中に、軍艦警手差廻しの御召艦追風に近づきぬ。やがて我等は「氣ヲ附ケ」につぎ喇叭手吹奏の君が代に、身の毛も引きしまるの感にうたる。ひびき渡る喇叭の音は海に應じ山に響きぬ。各員最敬禮の中を御召艇は假棧橋に達しぬ。殿下此時の御扮装を遙かに拜するに、陸軍少將の御暑服いかめしく直ちに御上陸。腕車にて成相山に向はるゝを拜して歸校の途につきぬ。

### 御手植の松所感

第四年級乙組 關谷新造

(現富山縣土木課長)

思ひ回らせば忘れもやらじ、畢月の十三日は、吾が天津日嗣の御手を迎へ奉りし、最も喜ぶべく、記念すべき吉日なり。仰ぐも尊き殿下には、教育御奨励のため、わざ／＼本校に臨ませられ、御親ら我等の學藝の林に分け入る様を、みそなほせ給ひしのみならず、おそれ多くも御眞影、御下賜金を賜り、刺へ御自ら櫛を手にして、松樹を植みさせ給ひぬ。吾等學籍を本校に置くもの、感極りて身の措く所を知らず。

嗚呼、此の御手植の松や、未だ尺を感えざる幼樹なれども、眞直にして毫も偏する所なきは他年亭々として天に聳え、歳寒の操こしなへに滴らざるべきもの、生等や恰も此の松に似て、純潔無垢の少年時



代、夫れよく聖旨を奉戴して、その本分を全うし、他日國家の幹部となりて頭角を現し、名を後世に揚げて朽つる所あるべからず。  
嗚呼、松や、その操の最も尊ぶべく、敬すべきものにあらずや。  
嗚呼、人や、その品性の高尚なるべく、潔白なるべきものにあらずや。

松の操や、幾千萬年の久しき間、或は風雨に曝され寒暑に襲はるゝも、毫も其の色を變せず、益々旺盛に、愈々生長して止まず、生等や、他日國家有爲の人士たらんことを期するもの、其の節操をこの校庭の記念樹に學び百難前に塞がり、萬障後に隨ふも、決して屈せず、難に遭うて氣益々横んに、眼に遭うて志愈々堅く、辛酸を嘗むる毎に益々其節を堅くし、窮苦に達ふ度に、愈々其の操を固うし必ずそを貫徹せんことを期すべし。

陽氣の發する所金石も亦透る、精神一到何事か成らざらん。  
松は百木の長たりとかや、此の幼松や、後日成長、亭亭として御空に聳えて、月明孤鶴と親しむ。豈夫れ快ならずや。我等は宜敷忍耐勤勉、自主の劍を提げ、て幾多の艱苦を戦ひ、高く頭角を現はし、理想の域に進むべく、此の松樹と競はざるべからず。

御手植の松は我等のこなりかな

### 東宮殿下奉迎之辭

第四年級乙組 長谷川市三

(現京都西陣織物組合長)

紫深むる雲間より輝き出でたる朝日影、燦爛として東亞の天を彩る

六四  
こと、ここに幾千歳にかなりにけん。此の光ある日東國や、文運盛々として日に月に進み、今や東洋の覇を以て稱せられ、世界の一等國として呼ばるゝに至りぬ。盛なる哉、天業の恢弘せる今日の如きは、千古に亘りて未だあらざる所なり。

つら／＼上代のことを思ふに、君は父兄の如く、民は子弟の如くにして、君臣のさま一家の如くなりき。されば民は君の爲に職業を勤め君は民の爲に養育、耕稼のわざを教へ給ひ、或は親しく各地に幸させ給ひて、只管民の業務を奨励せさせ給ひしかば、八州悉く時雨の化に霑ひ、萬民皆天日の光を仰げり。されど山陰の地は名にし負ふが如く古來其の光に浴する事比較的に薄き觀ありて、帝王太子の此の地に幸し給へることは絶無とも云ふべく、只武家跋扈の世に後、鳥羽、後醍醐兩皇の四狩せさせ給へる悲しむべき歴史を有するに過ぎざりき。然るに今度、皇太子殿下には臣民を愛撫せさせ給へる大御心より、遠く山陰各地に巡駕せさせ給ふ。

殊に殿下には教育御奨励の有難き御思召より、我々に臨ませられんこと。吾等學籍を本校に有するもの感極りて述ぶる所を知らざるなり吾等は此の日出度き日の本の國に生まれ出で、更に聖世に遭遇して且この此き行啓を拜するを得るは、誠に千載の一遇なりと云ふべし。この、我等は如何にして此の御恩深き皇恩の萬分の一だに報い奉るを得べき。唯赤誠一片以て學生の本分を勤み、他日國家の經營に副ひ奉らん事を希ふのみ。

### 本校前庭の三大寶

第四年級乙組 土肥 精三

(現安田銀行本店課長)

本校前庭の三大寶とは校碑、敢爲碑、皇太子殿下御手植記念樹を云ふ。いづれも位置を前庭の要地に占め、共に本校の教育精神に關する



ルタシ長生トグスクス  
松植手御下殿子太皇

こと甚大なるものなり。殊に模範學校として毫も耻づかしからざる校風發揮の源を固むるものなるのみならず、將來幾千の國士が高名を天下に轟かさんも、此等の力あつたて大ならん。嗚、盛なる偉業と言はざるべけんや。

校碑、敢爲碑は本校職員生徒一致協力の賜と言ふて可なり。校碑即

ち國士魂碑は、陸軍大將山縣有朋侯爵閣下の書を大岩にほりつけたるものにして、門衛所の前に小山の如く高く峙てり。我々職員生徒たるものは校門出入の際には、必ず渾身の至誠を敬禮す。敢爲碑は日本海大戦の大勝利記念に職員生徒の團結和合の力によりて成就したる東郷池畔にあり。武名を以て天下に鳴る東郷海軍大將の筆にして大將の精神たる「敢爲」の二字を刻す。御手植記念樹は、去る五月三十日、皇太子殿下我々に臨ませ給ひ、教育御奨励の有難き御思召より、恐れ多くも記念樹の御手植の榮を蒙り、尺足らずの幼松本校前庭なる庭園の傍に勇ましく直立す。これ所謂記念樹なり。我々の幼にして發達を要するは、此の記念樹の如し、且また彼の松の大木を期するは我々が品性を高尚にし、偉大なる人物を期するに似たり。御手植の松の眞美は其の中に存す。

斯の如く我等學籍を本校に有するものは、岩木よりさへ奨励を受け愉快に學ぶを得。嗚呼、我々こそは眞に幸福の極に達したりと言はざるを得んや。これ全く三寶の偉力による、されば我々は日夜この三寶を敬す。此の三寶の教に報ゆるの道は唯一あるのみにして、至誠報國これなり。

### 東宮殿下行啓之記

第三年級乙組 岡本 季正

(現外務書記官會計課長)

明治丁未春五月。有皇太子殿下山陰行啓之事。東郷大將。中山侯爵



等皆扈從。我亦亦時迎風登之榮。蓋屬未曾有之事。此日殿下巡覽生徒之日課。嘉賞。下優渥之旨。又躬植樹。賜御眞影及若干。眞可謂光榮之極也。願今後益發智能。成就德器。以期報國。

### 皇太子殿下御臨校の所感

第三年級乙組 吉岡計之助

(現兵庫縣土木部長)

明治四十年五月十三日は長くも皇太子殿下には當校へ御臨校なされ給ふ。抑も全國に數多く中學校はあれども、未だ其の日課まで親しく御覽なされし中學校は、國家開けてより未曾有のことにて我が校を以て其の嚆矢とす、之れ實に我等の光榮なり。且我等は滿腔の赤誠を以て奉迎し、日課につき、而して此の至誠のよく殿下の大御心に通じ長くも「満足に愉快に見た」その御言葉も賜り御眞影も賜り、且又御樹我をもなさせ給ひぬ。かくの如き御恩は心肝に銘す、御手植の松は寒暑風雨にあひて、は益々至誠の心を養はざるべからず。又當日は東郷大將を初め幾多の來賓を我が校に迎ふる事を得しは、之れ又光榮なり嗚呼我が校の光榮は其の極點に達したり。この聰明鋭敏に渡らせられ將來は天津日嗣にならせ給ふ、東宮殿下を戴き奉るこそ幸福なれ、務めざるべけんや、勵まざるべけんや。

つくづく御聞きになり、いさも御満足な御顔色にて、一乙の方へ出でさせ給ふ。我教室には五分間止られたり。御かへりにも亦我教室の前を通らせらる。此時皇御國の歌を歌ひ居たり。殿下御通過の後しづかに教室を出で、校門外のアーチの内に武裝生及三年甲乙整列し外に二年一年の各組整列して、殿下奉迎の準備をなす。殿下は各日課を見て、東郷池記念碑、校碑等を見玉ひ、記念樹の御手植あり。而して暫く御休憩の後、御下賜金と御眞影と左の御言葉とをのこしおかれ校門を出でさせ玉ふ。「學校はよく整うてゐた。愉快に満足にみた」と。我等ややくと茲に殿下を奉送せり。最敬禮終るや、校長の合圖にて萬歳を唱へたり。御一行盡く見えたりしかば全生徒は又海岸の男子小學校の裏へゆき、殿下の水産講習所のうらの棧橋より、スチームボートにて御召艦「追風」に乗り込まるゝを奉送せり。海上波靜かにてスチームボートは殿下を載せて速かに走りて「追風」に着せり。我校の君が代の喇叭の音は陸より起り、各艦中よりもそれ々々喇叭の音をなせり。殿下靜かに御召艦へ乗り込まるゝと、マストに高く皇太子旗翻る。既にして各艦は各々喇叭を吹奏しつゝ運動をはじめ港外へさ向ひぬ。皇太子旗のマストに翻りし時は吾等思はず萬歳を絶叫しぬ。艦隊動き始むると一同は歸途に就きたり。謹んで茲に奉迎の記を作る。

### 東宮殿下行啓

第二年級甲組 木戸 潔

(現横浜高工教授理學博士)

時は五月十三日、天氣晴朗、時すでに午前十時すぎる牛、折しも水

### 東宮殿下行啓の記

第二年級甲組 田中香苗

(醫學博士耳鼻咽喉院長)

維時明治四十年五月十三日、天麗かに氣澄み渡り、心地よき風は風々として題目山より吹き下ろし、何さなく爽快を覺えしむ。空に鳴く雲雀、花に舞ふ胡蝶皆かしこき皇太子殿下を奉迎せんとして、さも樂しげなり。況や忠君愛國の念に富む吾等は此の目出度き行啓を如何にか深く膺裏に印象せしめて、未來永遠に傳へ奉らざるべき。今いさゝか奉迎につきて、其の概況を記し見ん。

殿下は午後二時天橋を發せられ午後、二時二十五分本校に御到着遊ばすべき善なれば、吾等は十二時登校し、二時運動場に整列し、而して校門前へ出づ。アーチの外には武裝生東向に、三年級甲乙兩組西向になり、其内には東向に二甲一甲、西向に二乙一乙等ならびて殿下を待ち居たり。程なく警部を先頭とし、殿下は四番目の御車に召され、いきほひよく出でまじにけり。既にして御車の見ゆるや、一同舉手注目の最敬禮をなし、喇叭なる君が代の喇叭も響き渡りぬ。御車の校内に入るや、奉迎の歌を歌ふ。後直ちに各組の日課につく。一甲英語、一乙歴史、二甲唱歌、二乙博物、三甲擊劍、三乙柔道、四年五年は中隊教練、我級は唱歌にて普通教室に入り、皇御國、天津日嗣を數回歌ふ。やがて二乙の教室の方より、校長の案内にて、知事を先導とし、殿下東郷大將等十名餘、我が教室に入らせ給ふ。直ちに先生のオムカンの合圖にて、最敬禮をなし、やがて天津日嗣を歌ひぬ。殿下は

清き奥御殿内に軸柱相叩みて入來れる數隻の驅逐艦ありき。これ東宮殿下御召艦「追風」なり、今や橋立御遊覽の爲茲に渡らせられ、剩へ我が第四中學校に行啓を賜ひしは實に余輩の光榮とする所なり。又我職員生徒一同殿下奉迎の名譽を負ひしぞ幸なる。東郷池の鯉も頭を上げ空に飛べる雲雀も池畔に下りて仰ぐも貴き日の御子を拜し奉りしならん。御出發の際には我々一同再び門前に集合し奉送せり。御車の前を通るや言ふに言はれざるの感に打たれ、只一念有り難き涙に咽ぶのみなりき。午後四時半御召艦「追風」は喇叭なる音楽を奏しつゝ黒煙濺々宮津灣を出でぬ。夕日既に西山に没し、セコンドの六時を報じ、入相の鐘ゴーンと響く頃獨り世の泰平を祝しぬ。

### 丹後の二名物

第二年級乙組 中島洋吉

(現滿鐵地方部工事課)

天の橋立は日本三景の一として、はやくより其の名が聞けて居る。吾等の第四中學校は模範學校として世間から注目されて居る。丹後の二名物とはこれをいふのである。本月五月十三日長くも東宮殿下山陰道行啓の途次を以て天橋の白沙を踏ませ給ひ、つゞいて本校に臨ませられた。有難い事の數々ある中に、双方とも御手植の松を下されたことは、特に記念すべきである。天橋はこれが爲に一段の美觀を加へ本校はこれが爲に一段の光彩を添へたのである。吾々は此校に學ぶ生徒であるから宜しく松の心を心として、修養に怠りなく、他日國家棟梁の材となつて美名を天下に擧げ、さうして此の校をどこまでも、天地



と相並んで丹後の二名物といふ名を存せしめればならぬ。否世界の名物とせればならぬ。

### 皇太子殿下御手植記念樹 に就きての所感

第二年級乙組 井 關 貢

(現東京高船教授)

皇太子殿下に御豫定なき事をわざ／＼たのみしは畏れ多き事ながら殿下には精神的教育の爲、深く同情をよせられ、快く御植下されしは是れ實に我等の光榮此の上もなしとする所なり。我等は記念樹の成長すると共に成功して、忠貞なる國民の幹部たるを期せざるべからず記念樹として稚松を選ばれしは此の松の如く從順に根着き易かれその意なり。一年中青葉にして變りなきが如く、生徒は至誠の心を以て生命のあらん限りつくすべきなり。松はあらゆる所にあり、國民の幹部たるべきものは毎年あらゆる中學より出て、あらゆる所に居らざるべからず。我等は將來實用の材となり、以て此の記念樹に對して恥かしからぬ様大いに發展すべし。

### 我級の日課に就いて

第三年級甲組 三 谷 隆 信

(現佛國大使館一等書記官)

本校が波靜かなる奥謝の海邊に吹く至誠の風に帆をあげて船出せし

より茲に五星霜、この僅かなる月日に、學校は長足の進歩をなして、明治四十年五月十三日の、春日暖に照り且れる午後二時四十分頃、東宮殿下の御臨校を辱くするに到りぬ。我等は門前に殿下を奉迎するや否や直ちに道場に入りて、畏くも擊劍の日課を御覽に供したり。抑も擊劍は我國古來の武術にして、他國に卓絶せる特技なり。實に此の技たるや精神及身體の鍛練のため最良なるものなり。されば御性質御勇武に渡らせ給ふ殿下には最も御意に召したる御有様なりき。されど如何に殿下が擊劍を好み給ふとも、生徒に誠なくば其の擊劍は死せるが故に、殿下の御満足を得る事は能はざるなり。嗚呼至誠は偉大なる力を持つるかな。

### 皇太子殿下行啓に付きて

第一年級甲組 岡 本 愛 祐

(現皇后事務官兼侍從)

嗚呼、記念すべき四十年五月十三日は、抑も如何なる日ぞや。畏くも皇太子殿下の我校に行啓遊されたる日にして我が學校の光榮、我等の喜び此の上もなし。東京の中學にさへ未だ行啓あらざれし事なしと聞くに、我校に行啓を仰ぎたるは實に光榮の至りといふべし。我等の喜び記念すべきこと四つあり。第一は我等の準備周到に日課に熱心なるを見せられたる「愉快に満足に見た」その御言葉は給はりしこと、第二は御眞影及御下賜金を賜はりしこと、第三は御手植の松、第四は東郷大將等に拜顔を得たること。

我等は此の恩典に浴し、向後層一層奮勵して以て國家に報せんことを誓ふ。

### 光榮ある第四中學校

第一年級乙組 近 藤 泰 夫

(現京帝大工學部教授)

宮津街を南に去る數町、山青く氣清き處、宏壯の建築物は、誕生尙淺きに拘らず、早く既に成果の見るべきありて、護手たる校風の頗る欽羨に値ひすべきものありと賞せらるるも府立第四中學校なり、本校は今や又光榮ある行啓の恩澤に浴して爰に一段の光彩を加ふ。五月十三日かこくも殿下より、御眞影及び金員を下賜さるるの榮を擡へり。天橋の勝地を遊覽あらせられし、殿下には直ちに我校に御車を寄せさせ給ひ、先生・生徒の出迎を受けさせられ、大森知事の先導にて階上なる御休憩所に入らせられ山内校長より捧呈せし寫眞帖及び教授狀況の記録等を御覽あらせられ、校長以下奏任待遇の教諭は特に拜謁を賜ひ御休憩二十分間にして、東郷大將、日高舞鶴鎮守府司令長官、橋本、伊知地の兩參謀長、大森知事を具し給ひて、博物館室に入らせらるる折柄岩城先生の二年乙組に對し豆科植物の説明を爲し居らるるを三分間開こし召され、續いて博物館本室に御入りあり、其の標本に付きて知事、校長等に御下問あり。次には二年甲組の天津日嗣の唱歌を三分間開こしめされ、其他英語、歴史の各教室の日課を御覽あり、次に三年乙組の柔道、同甲組の擊劍試合を御覽に供せしに、殿下には御満足の態に御覽遊ばされたり。それより野外大運動場にて四五年の兵式

体操を御覽ありしに生徒の行動敏にして、而も秩序整然たるものありに感じさせ給ひし様子にて、種々御褒詞をさへ知事校長に給はりけり。夫より前庭に於ける日本海大海戦の大勝利記念の東郷池を御覽あらせられ、大將の揮毫になれる「敢爲の二字を刻める碑文につき東郷大將を顧みられ色々御物語あり、更に校門入口なる山縣元帥の揮毫にて「國士魂」の三字を刻せる校碑を御覽の後を原前の東側に稚松の御手植を戴き、再び階上なる御休憩所に入らせられ、知事校長等に向はせられ、「本校は設備整頓して教育の効果見るべきものあり、至極愉快に覺ゆ満足した」とその御言葉さへ給りつ。校長以下先生一同感泣して知事を経て御禮申上げ、直ちに還啓仰せ出され供奉諸員と共に御車にて講習所へさ向はれたり。

### 御手植の記念樹

第一年級乙組 大 石 松 一 (醫師)

松の緑ともろさにも  
ますます正義の風強く  
奥謝の浦わに帆をあげて  
至誠の海に舟出せよ  
松の直きともろさにも  
自主の心を一すぢに  
四百の國士いでやいで  
立ちて世界に活動せよ



# 皇太子殿下奉迎につきて

第一年級乙組 寺田立雄

(現大阪鐵工所神戸出張所長)

春も將に終を告げんとする明治四十年五月十三日は如何なる日か、千載一遇、皇太子殿下の御行啓を本校に奉迎せし日なり。此の山間僻地なる丹後の一寒村に於て、此の御行啓に接するの榮譽を得たるは豈に偶然ならんや。四五十年を回顧せば同じ人にも町民たるものは士に出會へば平伏す。徳川將軍の如きに至つては容易に見る能はざる有様なりき。然るに現今に於ては、殿下を間近に拜するを得るに至りしは全く明治聖代の御恩と云ふべし。されば我等は各自に奮勵校名を發揮し、京都府立第四中學校なるものが丹後の一寒地宮津町にあることを天下に知らしめざるべからず。

# 〇二十五年前建設の天壤無窮碑及びその除幕式

七〇

天壤無窮碑一に校碑と稱し、これを御野立所跡に樹てつ。南面に於て前に十三尺、側に十二尺、高さ一尺三寸の石壘上に二尺八寸の石柱を廻らすこと十七本、それが中に前に五尺五寸、側に五尺、高さ三尺に自然石を築き上げ、以つて台石を支持しこれに幅二尺二寸、高さ六尺六寸の仙台石を建て表に千葉縣知事正五位勳三等告森良閣下「天壤無窮」の四大字を題せられ、裏に山内校長文を撰し、宇都木本校教師これを書し、刻して以て萬代に傳ふ。眞に好箇の記念にして、本校教育の源流實にこゝに湛へむとす。されば今更に碑陰の文を録せむ。

明治辛亥五月 皇太子巡千葉縣内二十一日臨本校親覽諸生學習之狀下旨嘉獎之且賜尊影徽臣何以報之唯當日夜振勵益奮粹教育以扶翼天壤無窮之皇運而已

千葉縣立佐倉中學校長 正七位 山内佐太郎謹撰

そもそも御野立所は、殿下が暫しが程跡を駐め給ひて、中隊教練を御台覽あらせ給ひし處なれば、本校に於りて這回の行啓を記念するには最眞の箇所なりとて、五月二日の朝禮に生徒の意見をも徴せしに皆碑を建て、千載に不朽たらしむべしとす。こゝに於て三日の職員會を経て一切決定し、七月二十日工を竣へ二十一日除幕式を舉行したり。式に列せしもの、竹迫聯隊長外將校十數名、浦岡郷田家々々令、中山印彌郡長、宮村佐倉警察署長、濱野濟生堂病院院長、佐倉郵便局長その他生徒の父兄、職員生徒にして、第三學年以上は武裝し、第二學

# 祝山内先生還曆記念圖書館

光延義民

齡迎華甲喜洋々  
弟子三千獻頌章  
天壤碑前新館就  
留魂堂裡德風芳

年以下は徒手なり。午前六時四十五分を以て學校長式を行ふ由を告げ生徒操銃の中に除幕す。それより「敬禮」の譜吹奏、終りて立銃、それより天津日編に對する「君が代」の譜吹奏、その間操銃、終つて立銃、學校長左の式辭を述ぶ。

去る五月二十一日、東宮殿下本校に行啓を賜はり親しく諸生の授業を覽はし給ひ、特に此の校碑建設の地に御野立遊ばされ、兵式体操を御台覽遊ばされたるは、本校職員生徒一同感激に堪へぬところである。この無上の光榮に浴したる職員生徒一同は無上の名譽を感ずると共に無上の責任を帝國の臣民として自覺した次第である。今茲に建設したるは天壤無窮の四大文字であるが、この有形の碑をして形式に止めず即死んだ石に止めず、この石は活躍して止まざる大和魂がこの碑の生命となる、即ちこの四大字は教育勸諭の眼目である。「朕爾臣民と俱に拳々服膺して威其德を一にせんことを庶幾ふ」が陛下の大御心であると同時に六千餘萬の心掛けであり且これが大忠である大和魂である。これが勸諭に仰せられたる通り「之を古今に通じて謬らす之を中外に施して悖らす」天地の大道を拳々服膺して天地の大精神を軍人勸諭にある一の眞心にて行ふのである。これがこの式辭の本旨である。これを以て宇宙の大道を行ふ眞心を、職員生徒一同の精神に建設するのである。この眞心を萬世一系の皇室と共に上下一心、拳々服膺するのである。克く忠に克く孝なるを國体の精華とし、こゝに教育の淵源は存するのである。これにて日本國民に生きたる人格は立つのである。この心を一にて吾が祖先は無窮に發展し人類天地が榮えるのである。

しかし油断ならぬは吾が心にてこの心をゆるめぬために、有形のこの碑を建て無上の光榮を感銘し無上の責任を自覺するのである。さきに陛下は勸諭勸諭書を發して臣民を指導せられた故にこの陛下の大御心を服膺し奉りてこの一心の失墜なきやう心がければならぬ。將來吾が職員生徒の内に親不孝の一字を冠するもの一人ありともこの碑は皮相のものとなるのである。恭儉博愛修學習業特に生徒は眞心誠意を極めて智能を啓發し徳器を成就するに力めなくてはならぬ。この式を奉ぐる精神はこゝにあるのである。かうして進んで公益を廣め、町村の安寧を念とし、國憲國法に矛盾することがあつてはならない。更に一旦緩急あれば義勇公に奉じ祖國に報するがこの碑の實質である。かくの如くして天壤無窮の四字に對するを得るのである。この精神を實現するにはわが心に不斷この碑を建設して無限の活動を持続するのである。この碑は無上の光榮に浴するに當つてこれに酬ゆる趣向はなきが本校職員生徒一同の希望なる故を以て帝國の臣子の天分を全うするが全校職員生徒一同の希望なる故を以て數ヶ月の離命と餘暇の努力とを以て出来たのである。この初一念を一貫して「篤信好學守死善道」の孔子の言を守り國民としての修養をつむのが藩校よりの生きたる本校精神である。この碑が運動場の單なる飾りに終らぬやう努めたいものである。希くば來賓父兄更に本校の眞心を御了解あられて本校教育を助長せられたるこの希望を以つて式辭を終る次第であります。

次に聯隊長の祝辭生徒總代の答辭あり。それより操銃の間に「國の鎮め」を吹奏し、校碑に對する敬禮を以て七時二十五分を竣つた。

(明治四四・七・二一 佐倉中學校々友會雜誌部記)

七一



○二十年前建設の天壤無窮碑記

大典記念碑設立の記

工藤 忠夫

(現外務書記官ローマ大使館在)

吾等は曩に大正四年十月を以て今上陛下千古不磨の御即位の大典を記念せんため荒蕪限りなき我が校背の山崖を拓きて種々の花木を植ふ更に東屋を二個所に建て又所々にベンチを配したり。我等一日の課業を終へ、讀書に倦怠の身を此所に運ばんか、御津兒島の平野は一望の裡に聚まり、人口十萬の岡山市街を下瞰し、兒島灣の碧水は指呼の間にありて、眞に一望よく鬱憤を淨掃して浩然の氣を養ひ得べし。然るに未だ之を貞眼に鑄して以て其の絶代の盛事を傳ふる象徴のなきを遺憾とし、其の建設を希望して止まざること一日にてはあらざりき。然るに今や我等の希望は達せられたるなり。

君見ずや、學舎の西北一段高き一丘に巖然として一基の碑を、恰も我校を擁護せるが如く、表に記されたる天壤無窮の四字は正しく寶祥のいや榮えに榮えまして千載に動きなき御世をこそほぎまつれるなり之より先、我校長山内先生此の計畫を立てらるゝや、其の運搬建設等に要する費の多額に上りしかば、日頃至誠勤勞の校訓に基づき我等生徒に運搬の命は下されたるなり。恰も五月二十六日の未明、我等寄宿舎生七十幾名は一齊に奮起して、一生懸命にその事に従ひしが實に人の

力は恐るべし。各程迄に困難を推意されし大盤石も難なく動き始めて岡山市奉還町より數十町の間を僅か數時間の中に首尾よく目的の場所に運ばれたり。その後附近に土砂、小石、花木、松樹等を配して、一段と莊嚴の趣を添へたり。西人謂へらく「Union is Power」を今に至つて遂にその言の眞なるを覺はたり。

抑々天壤無窮の四字は、我等が敬愛措く能はざる山内先生の常に我等に説かるる言葉にして、日頃國民教育の任に當らるる先生が特に國体の尊嚴と人格の絶對とを一致せしめんとの趣旨によりて撰ぜられたるもの。書は斯道の泰斗森谷金峯先生の手を煩はしたるものにて雲煙飛動するの概あり。

× × × × ×

嗚呼！に於いてか我等の望は叶へられたり。嬉しくも嬉しき極なり。校内西北隅の高所に大典記念碑は建てられたり。翠深き萬成山の麓、誰か停まつてこの碑を仰がざるものあらんや。

大正六年六月十三日

工藤 忠夫 記

宿阿武兔磐臺寺

蘆川 漁史

觀音堂上思無邪 獨仰慈光避世譚

風拂浮雲天産月 潮歸岬角海生花

昭和十年七月十五日印刷  
昭和十年七月十七日發行

非賣品

編輯

右代表

森

光

賀

印刷人

兵庫縣立明石中學校々友會雜歸部  
大阪市東淀川区中津南通二丁目三〇

光

延

義

民

印刷所

大阪市東淀川区中津南通二丁目三〇

十

光

社

印刷所

電北一九一三

發行

兵庫縣立明石中學校々友會



終